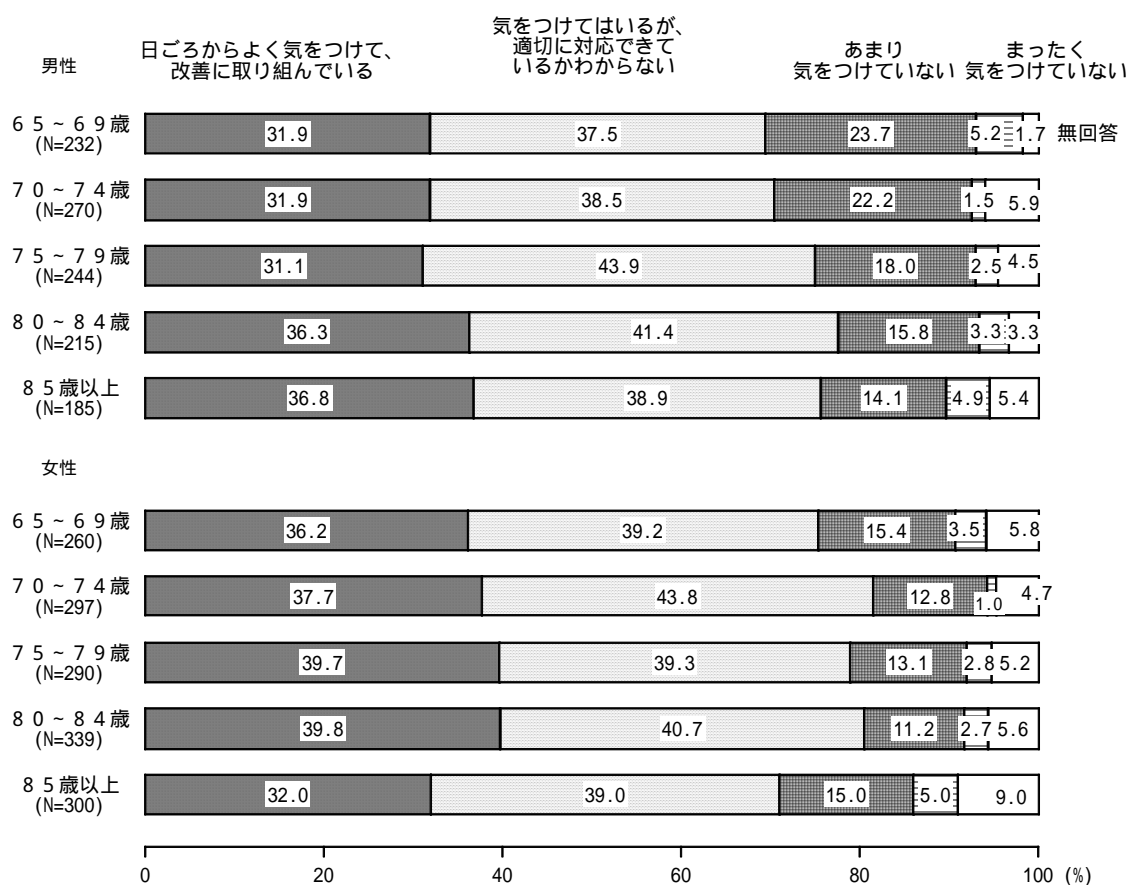


主なクロス集計結果（高齢者一般調査）

1 介護予防と介護のあり方について

（１）心身の変化に対する意識

図 1-1 心身の変化への対応・改善の有無（性・年齢別）



心身の変化に対する意識を性・年齢別にみると、男女ともに概ね年齢が上がるほど「日ごろからよく気をつけて、改善に取り組んでいる」割合が高くなる傾向にある。また、85歳以上を除くと、同じ年代では男性よりも女性の方が「日ごろからよく気をつけて、改善に取り組んでいる」割合が高い。

(2) 介護予防に関する知識と取り組み

図 1-2 病気・老化の予防のために取り組んでいること (性・年齢別)

【男性】

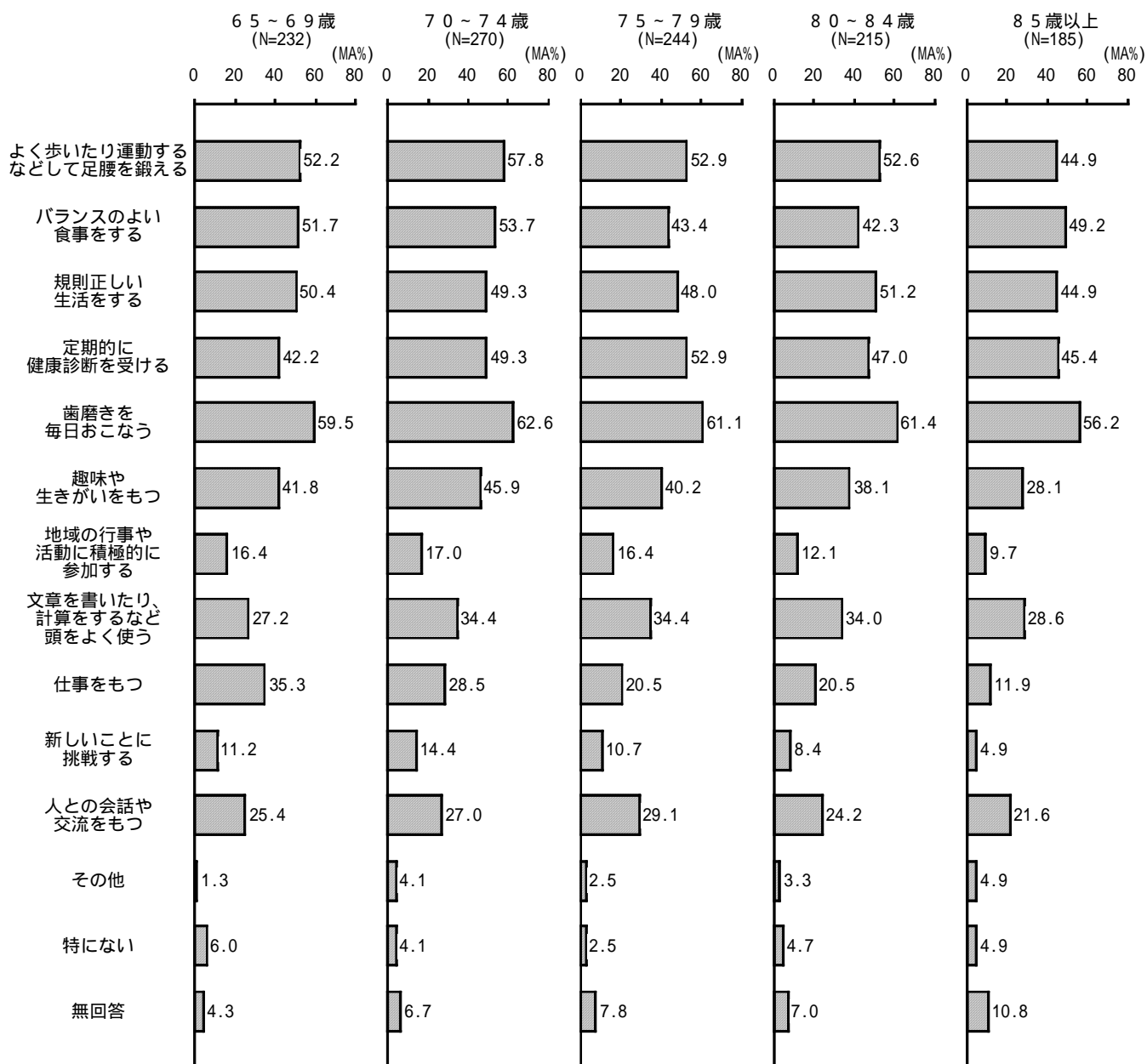
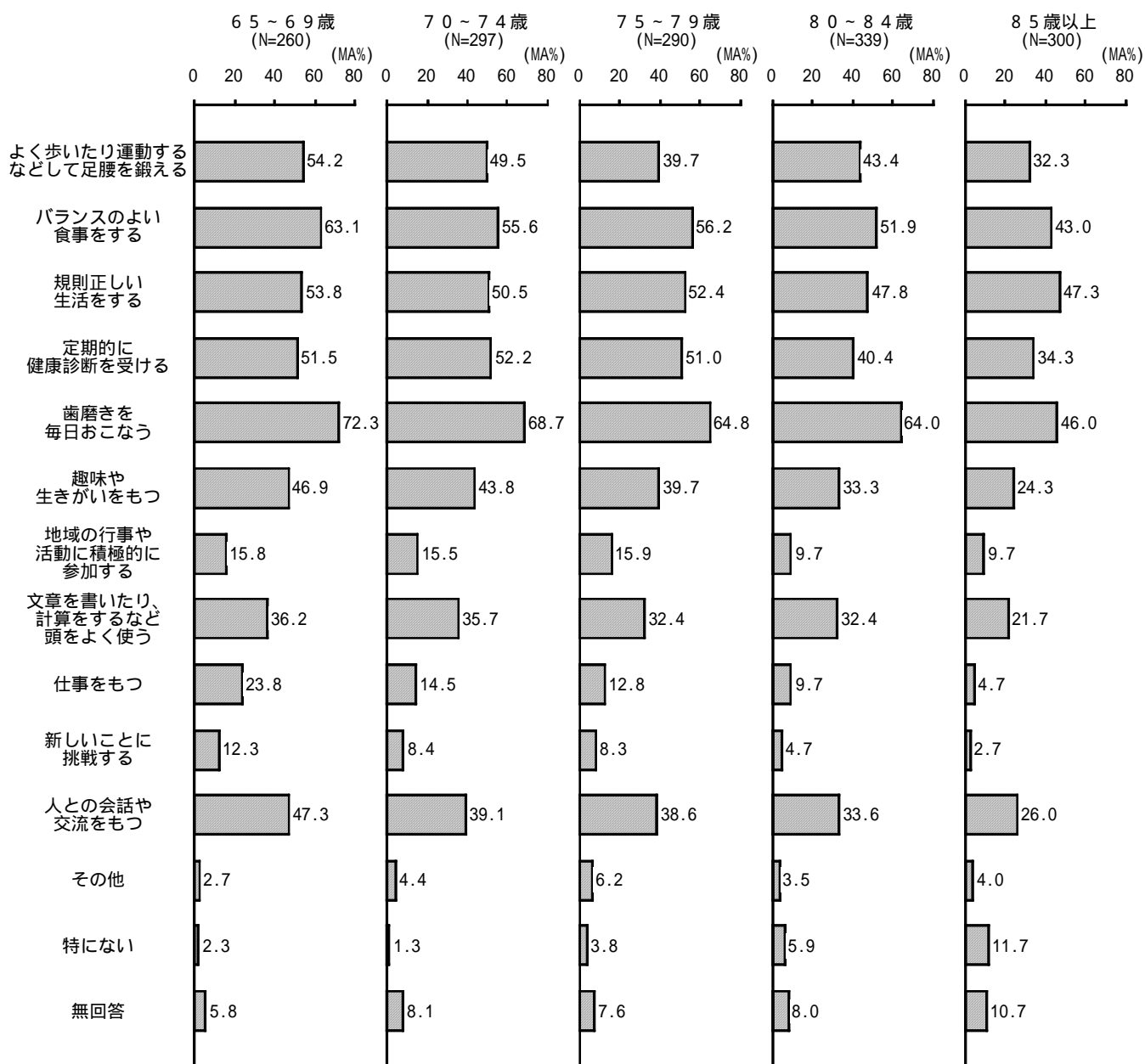


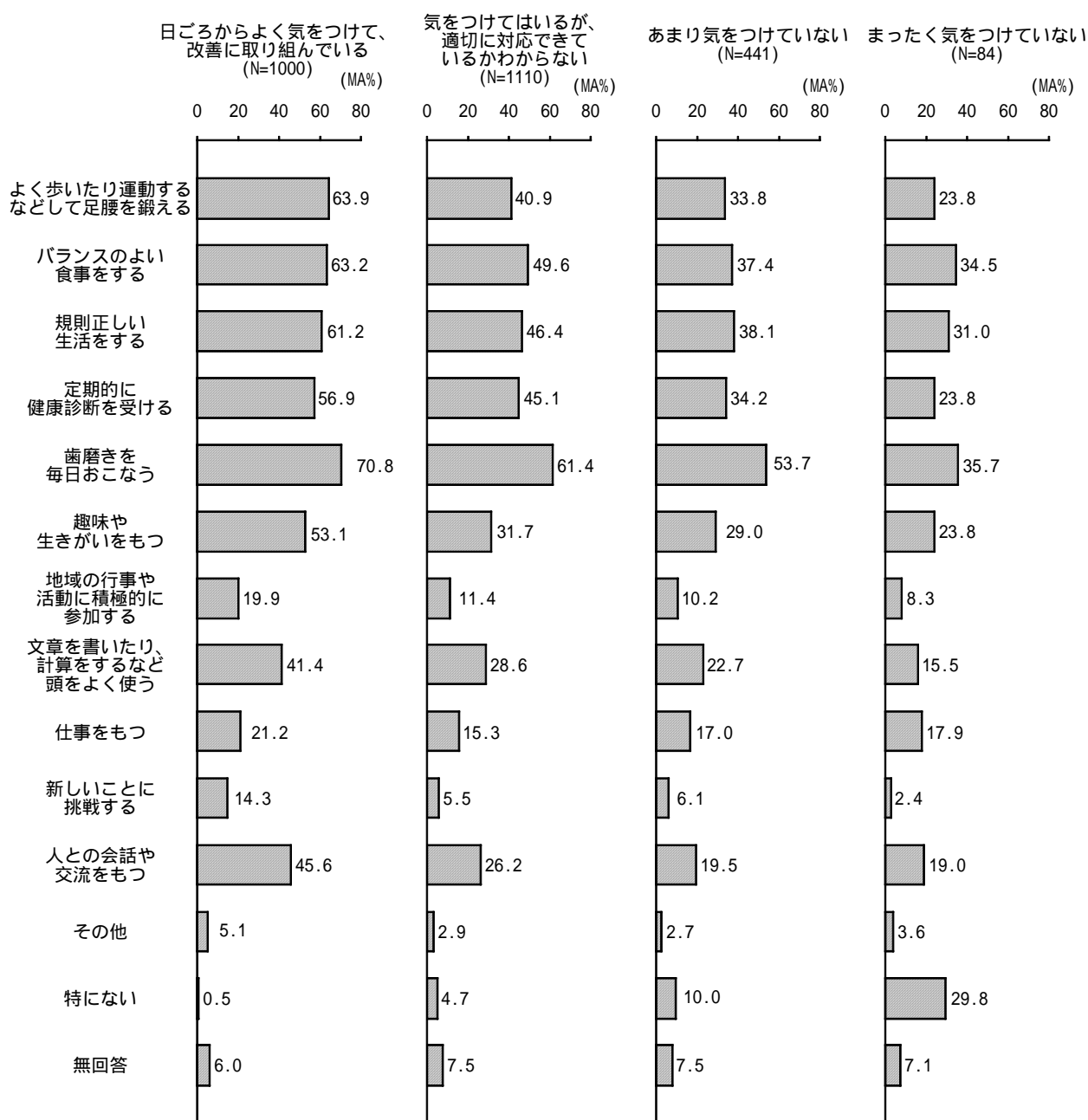
図 1-2 病気・老化の予防のために取り組んでいること (性・年齢別)

【女性】



病気・老化予防のために取り組んでいることを性・年齢別にみると、男女ともいずれの年代も「歯磨きを毎日おこなう」が最も多く、特に女性の65～69歳では7割強と高くなっている。

図 1-3 病気・老化の予防のために取り組んでいること（心身の変化に対する意識別）

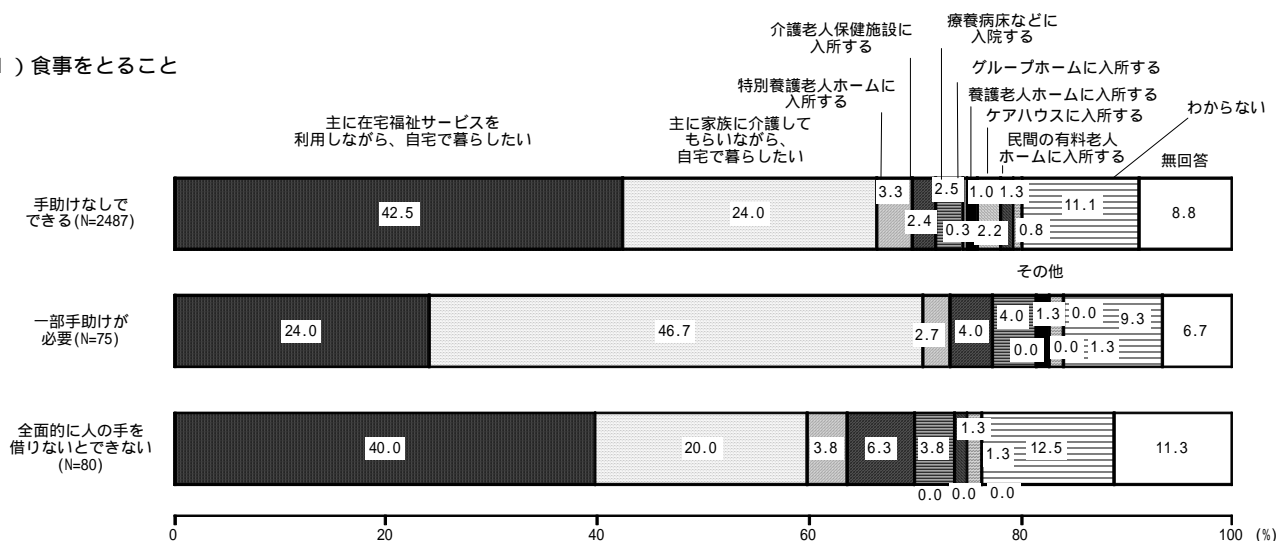


心身の変化に対する意識別にみると、「日ごろからよく気をつけて、改善に取り組んでいる」と人と、「あまり気をつけていない」または「まったく気をつけていない」人では、運動や食事、規則正しい生活などの項目のほか、「趣味や生きがいをもつ」「文章を書いたり、計算をするなど頭をよく使う」「人との会話や交流をもつ」などの項目においても、取り組み割合に大きな差がみられる。

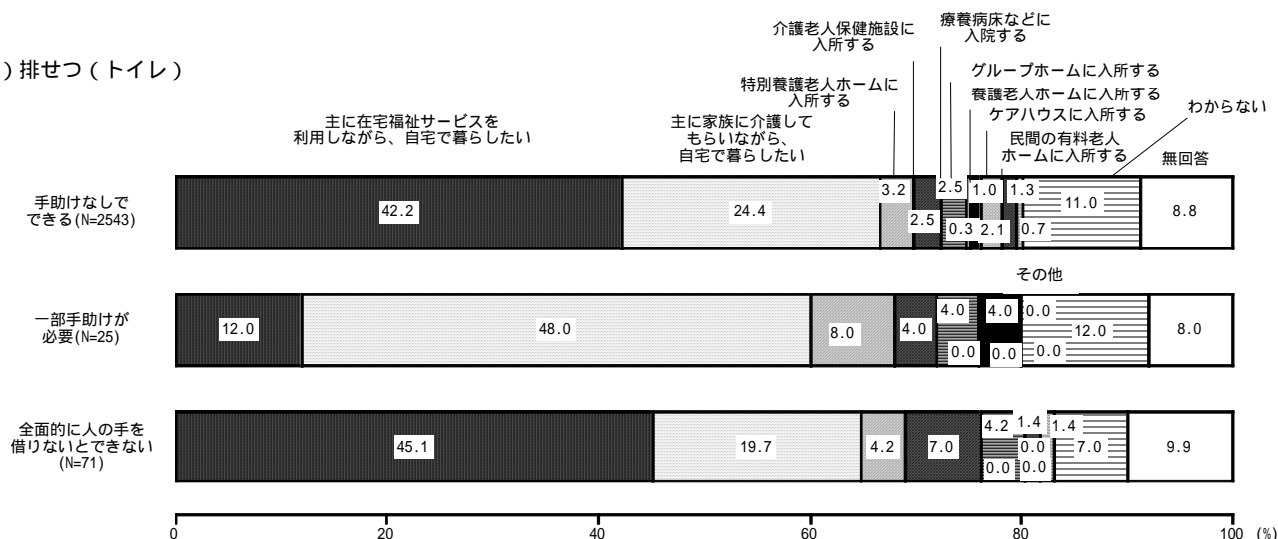
(3) 住まいと介護について希望する暮らし方

図 1-4 住まいと介護について希望する暮らし方 (基本的 A D L 別)

(1) 食事をとること



(2) 排せつ(トイレ)



(3) 着替え

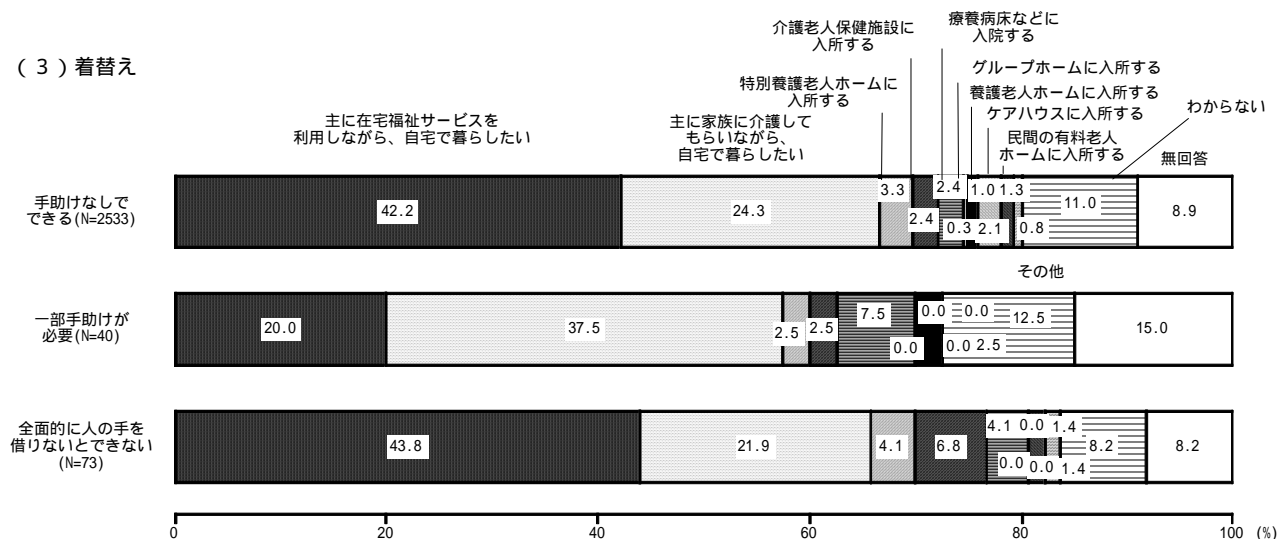
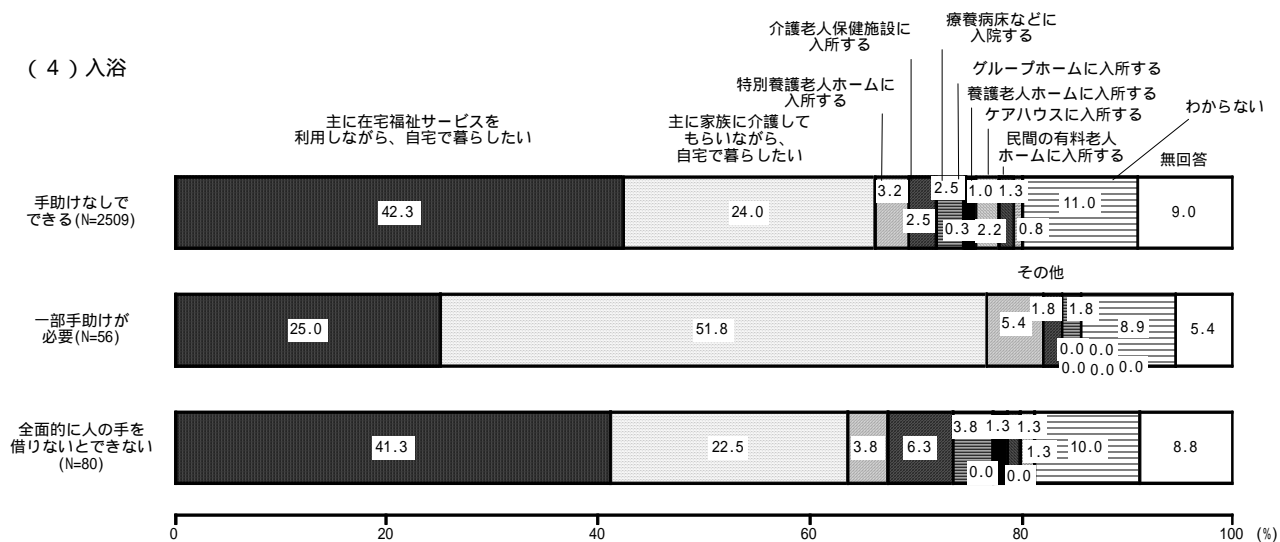
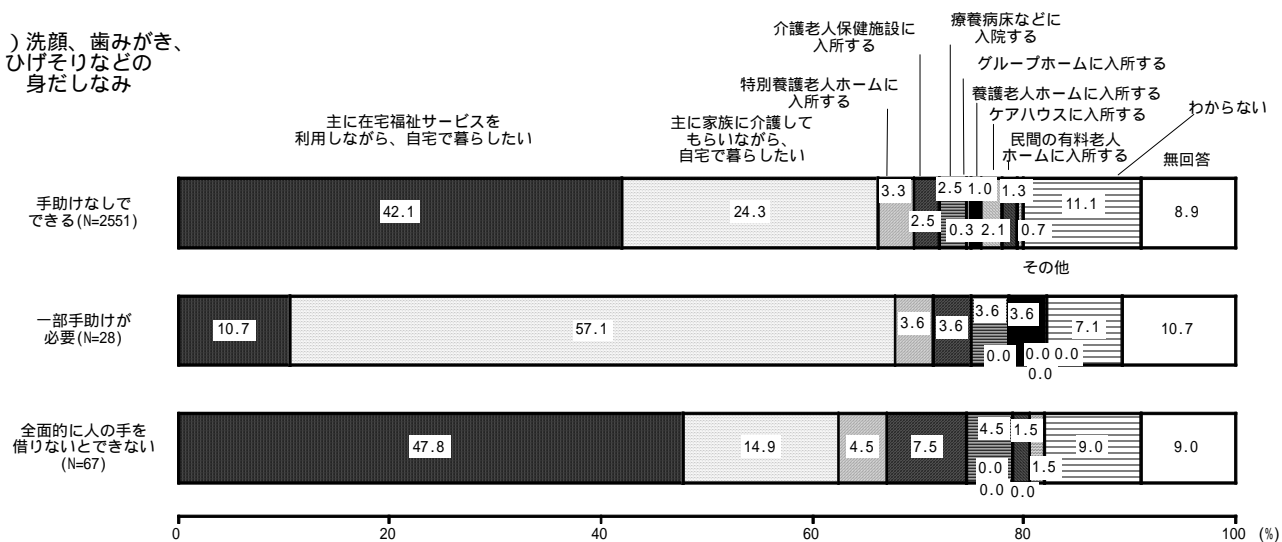


図1-4 住まいと介護について希望する暮らし方（基本的ADL別）

(4) 入浴

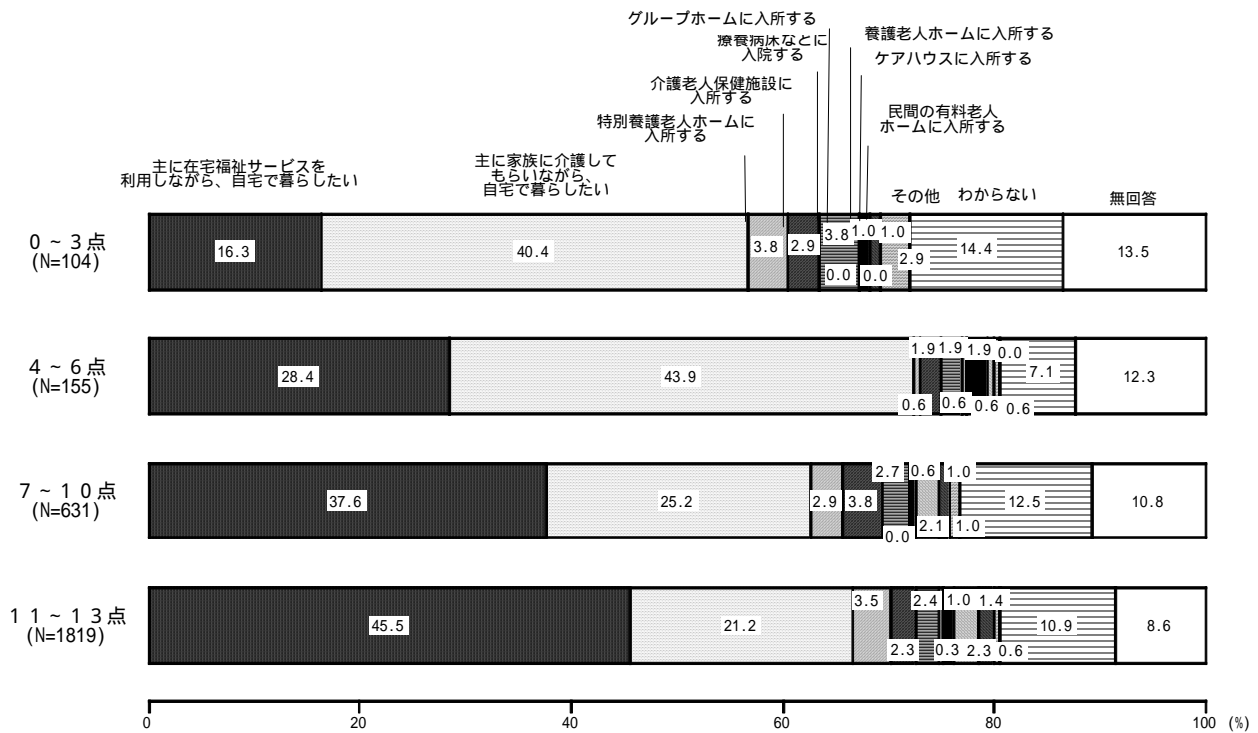


(5) 洗顔、歯みがき、
ひげそりなどの
身だしなみ



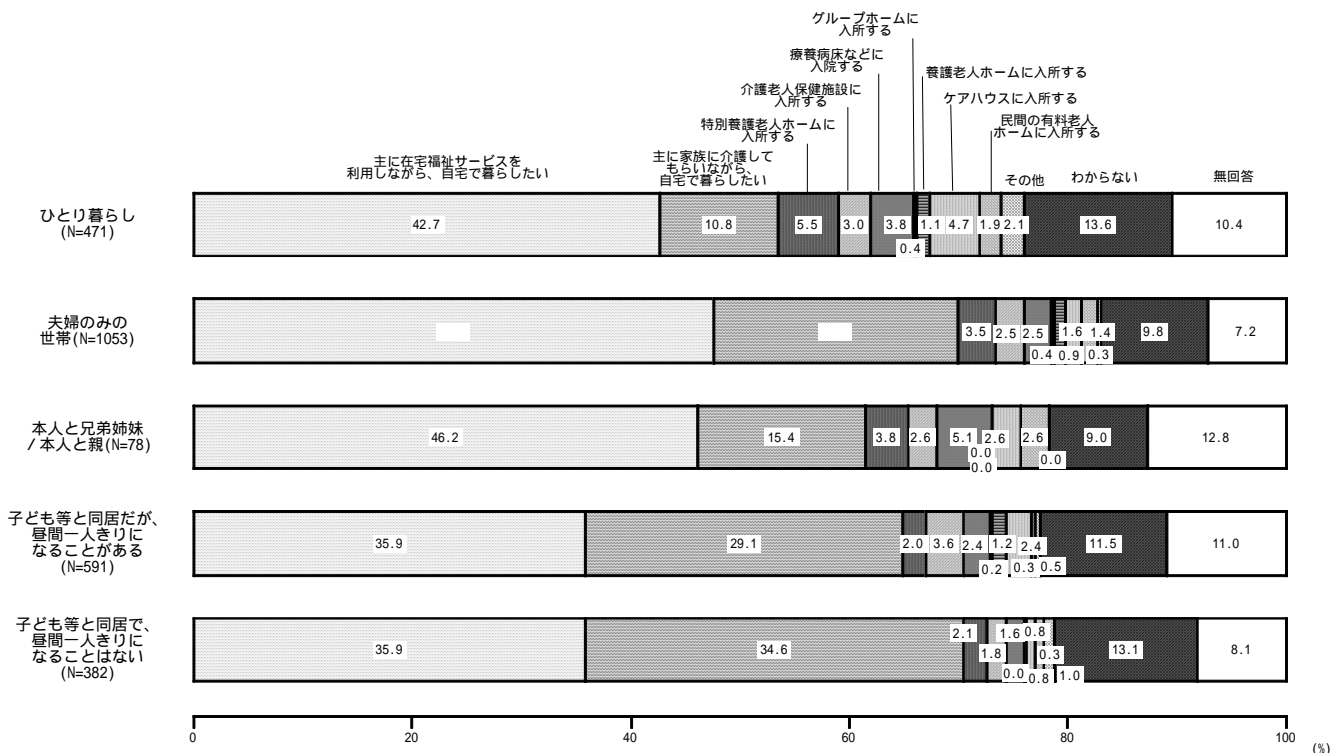
介護が必要となった場合に希望する暮らし方を基本 A D L の別にみると、「一部手助けが必要」な人では、全般的に、「主に在宅福祉サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」割合よりも「主に家族に介護してもらいながら、自宅で暮らしたい」の方が高くなっている。

図 1-5 住まいと介護について希望する暮らし方（高次ADL別）



高次ADLの別にみると、得点の高い人ほど『主に在宅福祉サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい』割合が高くなっている。

図 1-6 住まいと介護について希望する暮らし方（家族介護力別）



家族介護力別にみると、自宅以外の施設等（介護保険施設を含む）を希望する割合は、「ひとり暮らし」で20.4%と最も高く、「夫婦のみの世帯」「本人と兄弟姉妹 / 本人と親」「子ども等と同居だが、昼間一人きりになることがある」世帯でも1割台となっている。

(4) 在宅生活を続けていく上で必要な支援

図 1-7 在宅生活を続けていく上で必要な支援 (将来希望する暮らし方別)

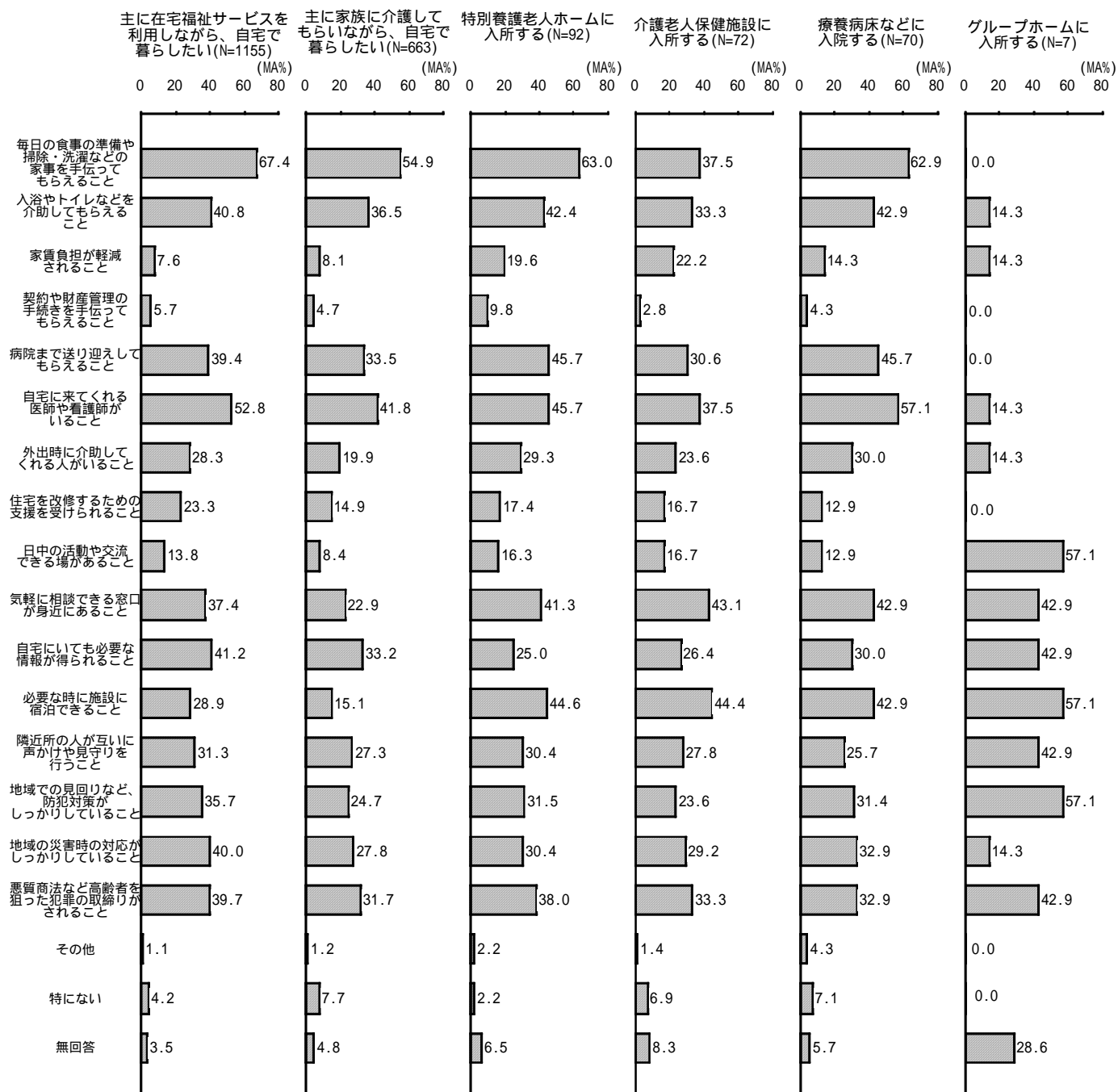
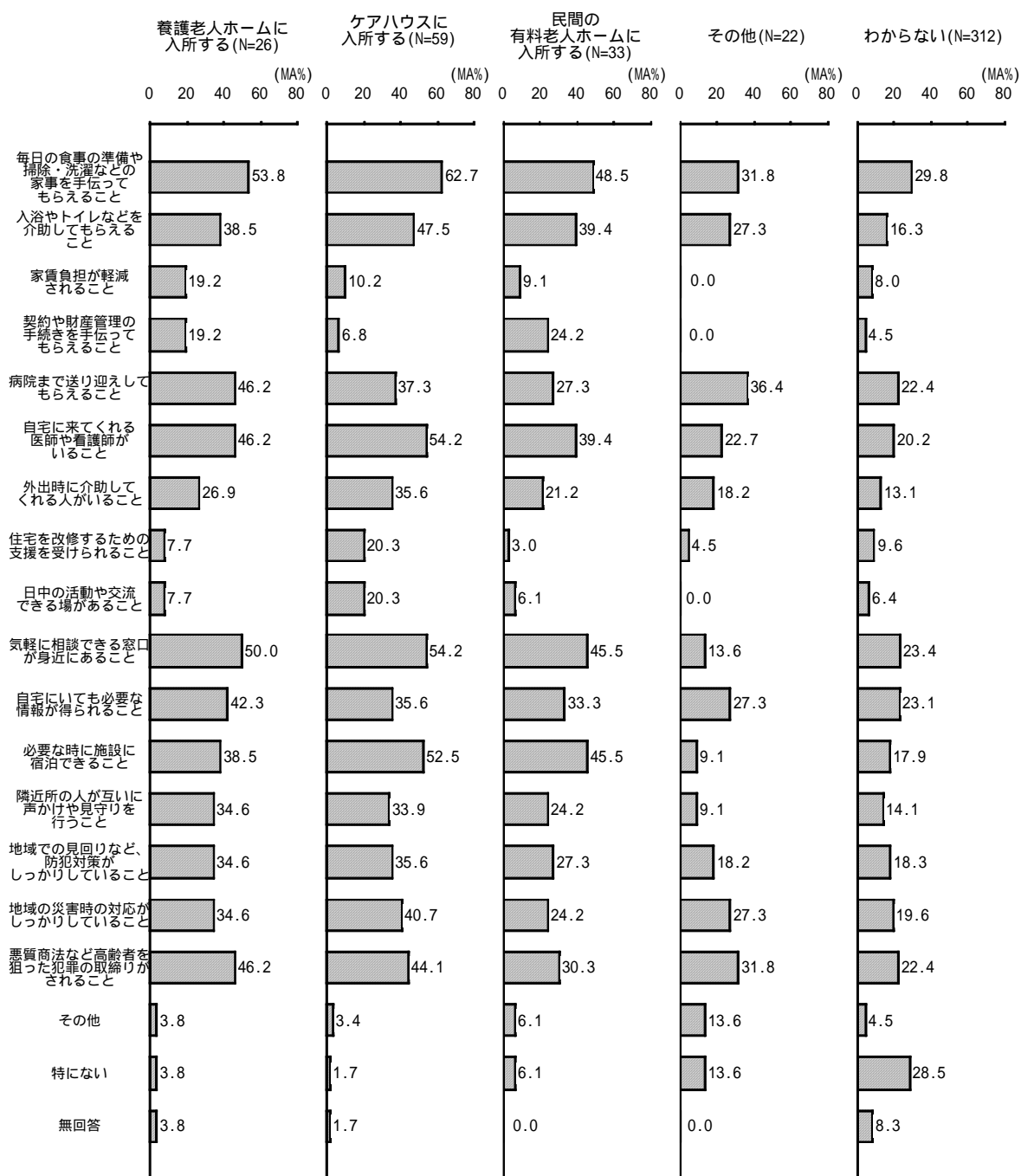


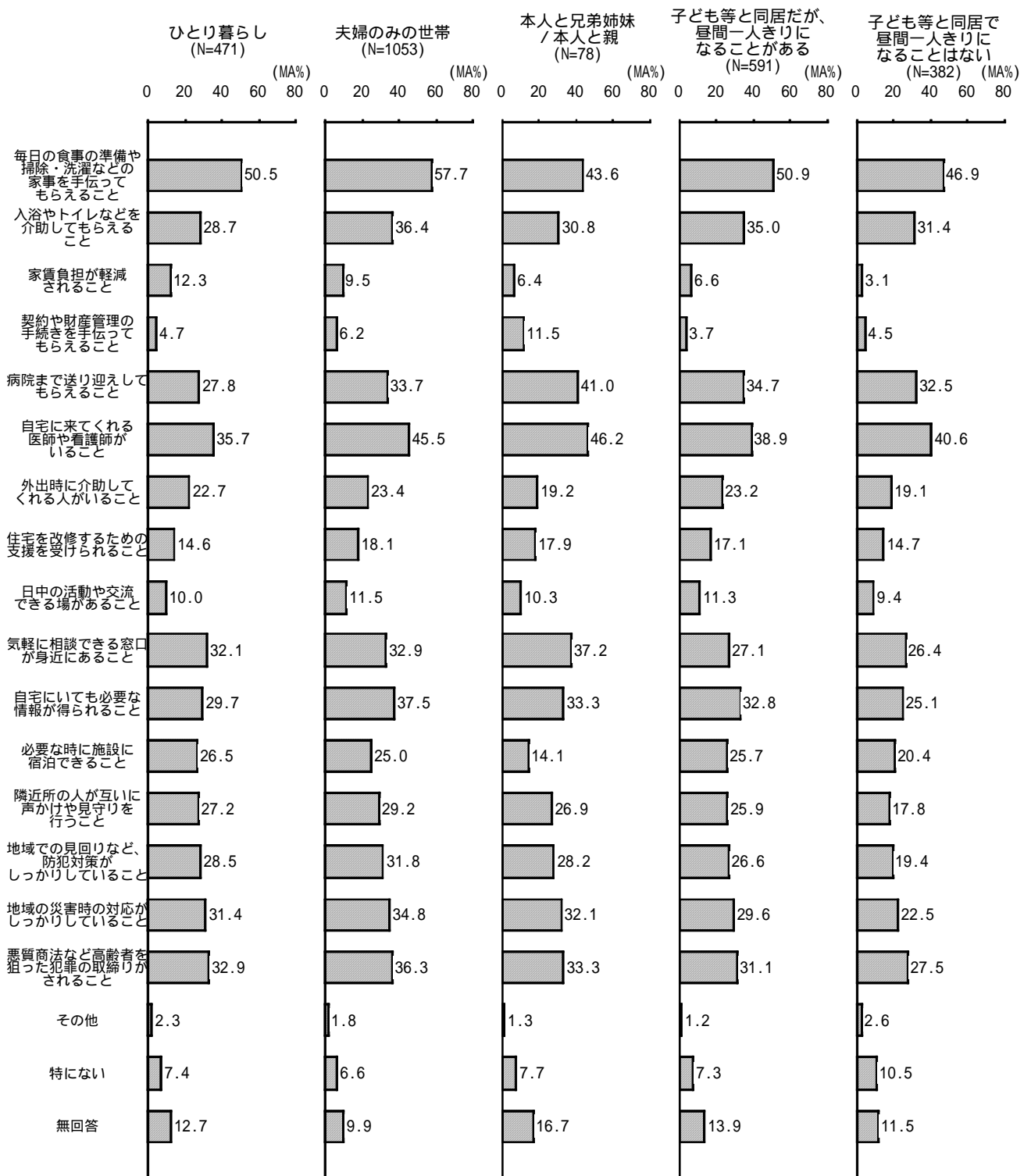
図 1-7 在宅生活を続けていく上で必要な支援（将来希望する暮らし方別）



在宅生活を続けていく上で必要な支援を、介護や介助が必要になった場合に希望する暮らし方別にみると、「主に在宅福祉サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」人では、「毎日の食事の準備や掃除・洗濯などの家事を手伝ってもらえること」が67.4%と最も高く、次いで「自宅に来てくれる医師や看護師がいること」が52.8%となっている。

施設入所を希望する人では、「必要な時に施設に宿泊できること」「気軽に相談できる窓口が身近にあること」が概ね4割以上となっている。

図 1-8 在宅生活を続けていく上で必要な支援（家族介護力別）

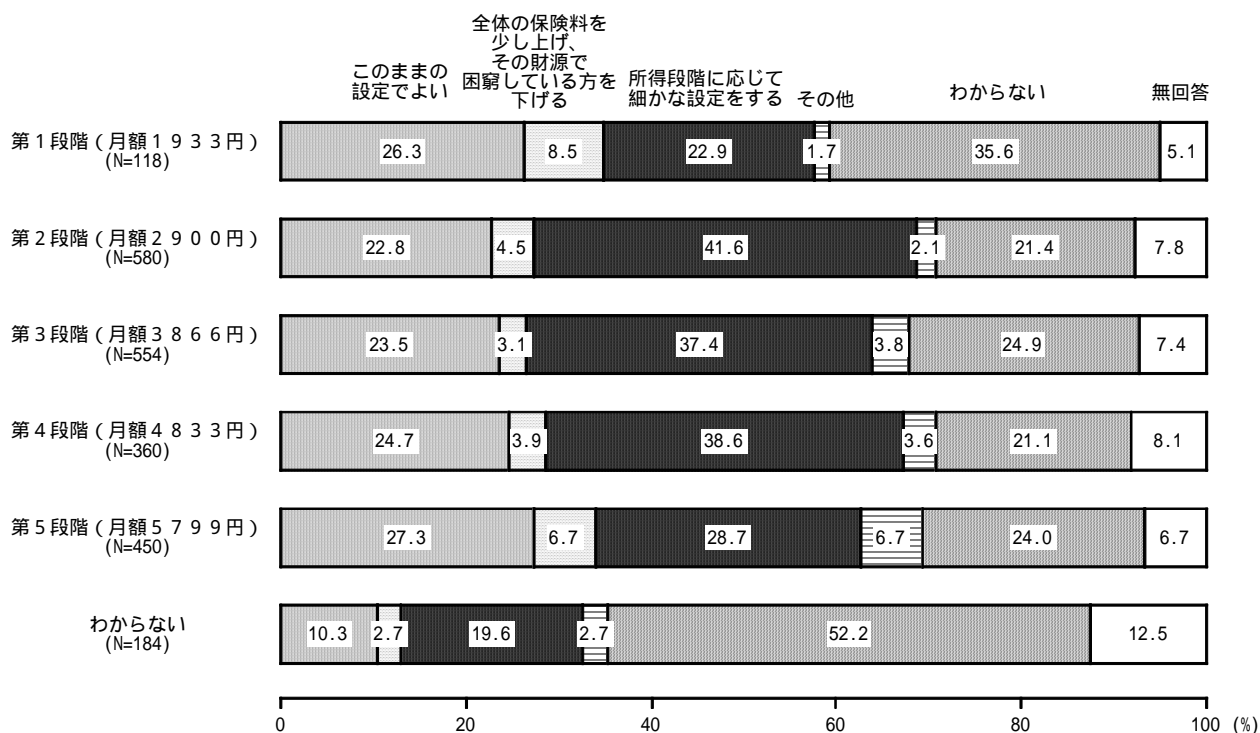


家族介護力別にみると、「夫婦のみの世帯」では「毎日の食事の準備や掃除・洗濯などの家事を手伝ってもらえること」が57.7%と、他の世帯類型と比べて高くなっている。また、「本人と兄弟姉妹 / 本人と親」世帯では「病院まで送り迎えしてくれること」が41.0%と高い。

2 介護保険制度について

(1) 介護保険料の設定についての意向

図 2-1 介護保険料の設定について（介護保険料の負担別）



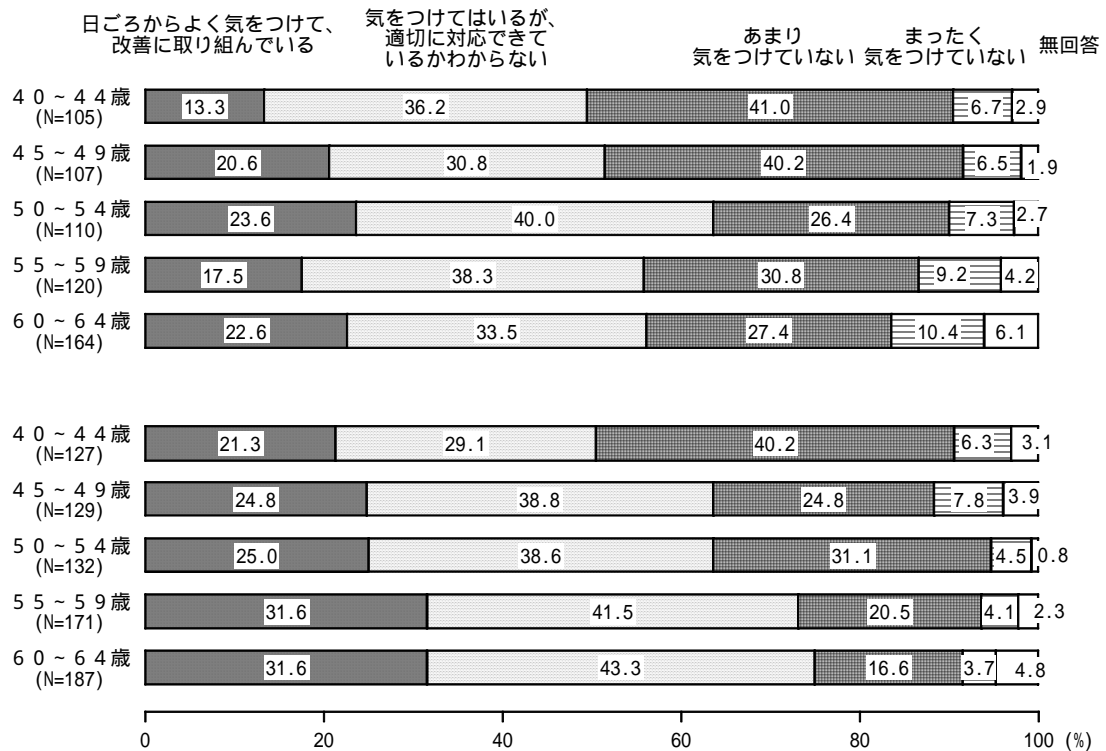
第1号被保険者の所得段階別保険料の設定方法について、介護保険料の段階別にみると、第2段階～第4段階の人では「所得に応じて細やかな設定をする」が4割前後であるが、第1段階及び第5段階では2割台となっている。

主なクロス集計結果（若年者調査）

1 介護予防と介護のあり方について

（１）心身の変化に対する意識

図 1-1 心身の変化への対応・改善の有無（性・年齢別）



心身の変化に対する意識を性・年齢別にみると、男性の40歳代、女性の40～44歳では、4割以上が「あまり気をつけていない」または「まったく気をつけていない」と回答している。同じ年代では男性よりも女性の方が「日ごろからよく気をつけて、改善に取り組んでいる」割合が高い。

(2) 介護予防に関する知識と取り組み

図 1-2 病気・老化の予防のために取り組んでいること (性・年齢別)

【男性】

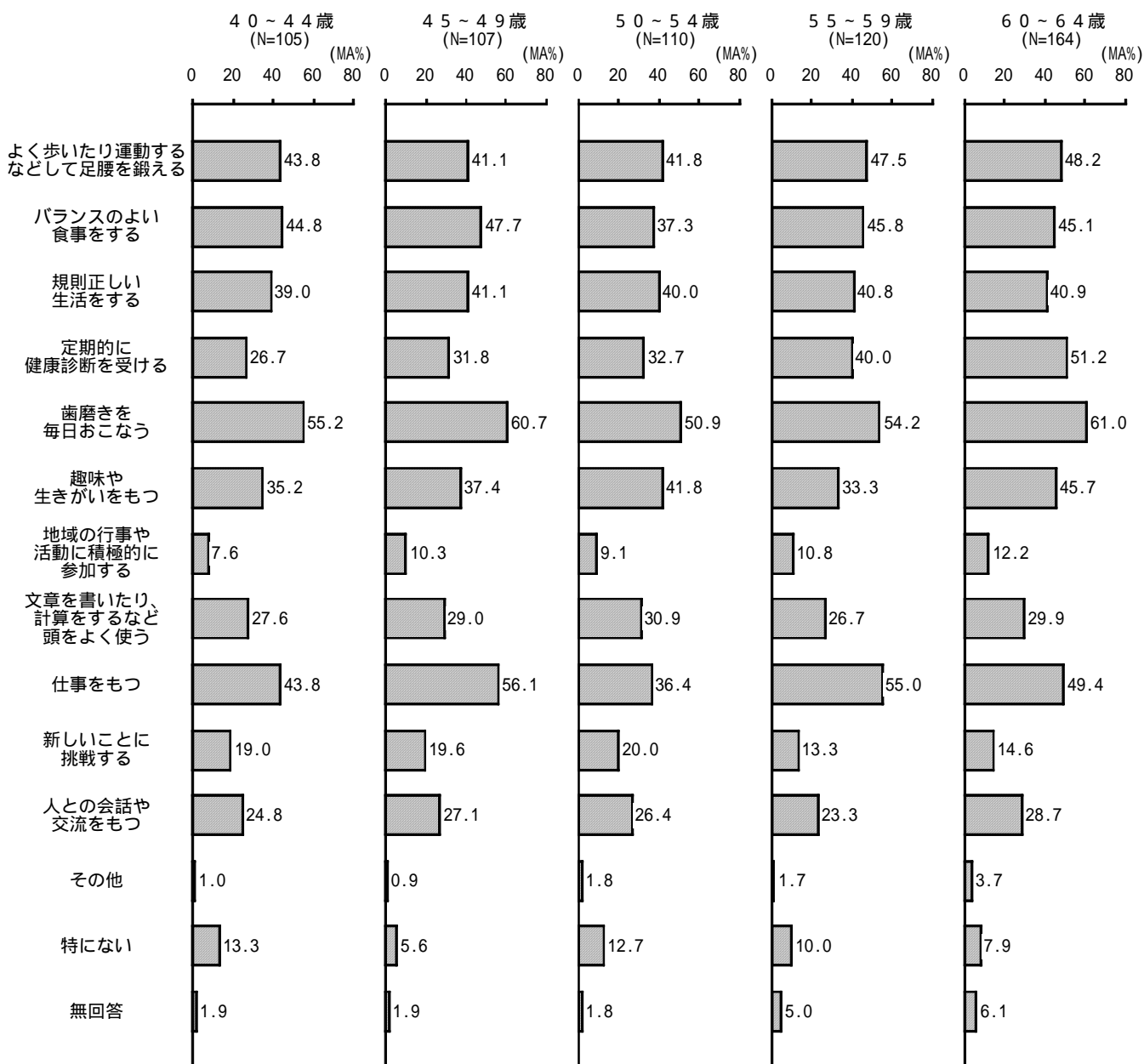
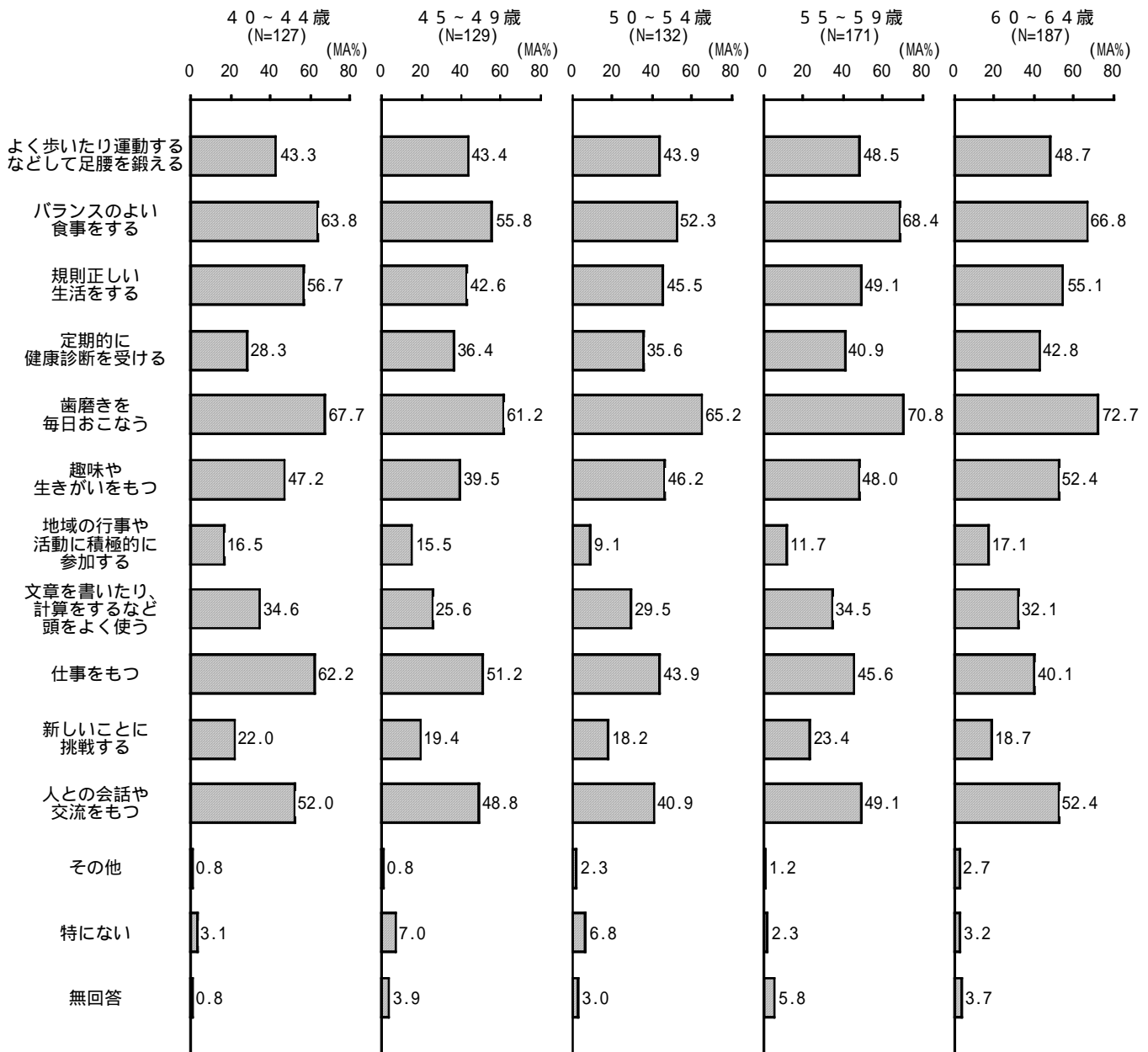


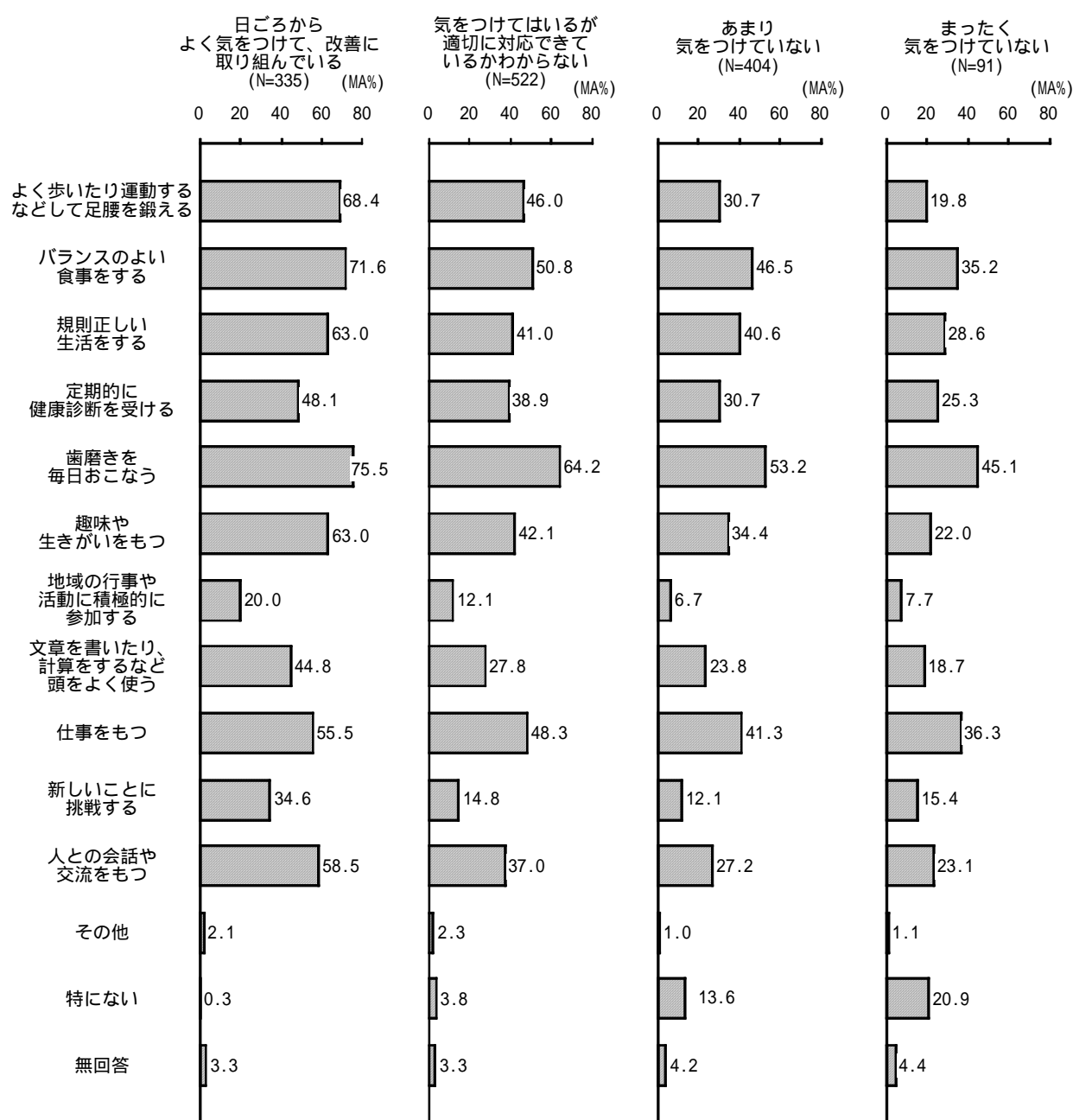
図 1-2 病気・老化の予防のために取り組んでいること (性・年齢別)

【女性】



病気・老化予防のために取り組んでいることを性・年齢別にみると、食事、規則正しい生活、歯みがき、趣味や生きがい活動、人との会話や交流などの項目について、いずれの年代も女性の取り組み割合が男性よりも高くなっている。一方、「定期的に健康診断を受ける」については、60～64歳の男性 51.2%に対し、60～64歳の女性では 42.8%と、女性の方が約 8 ポイント低くなっている。

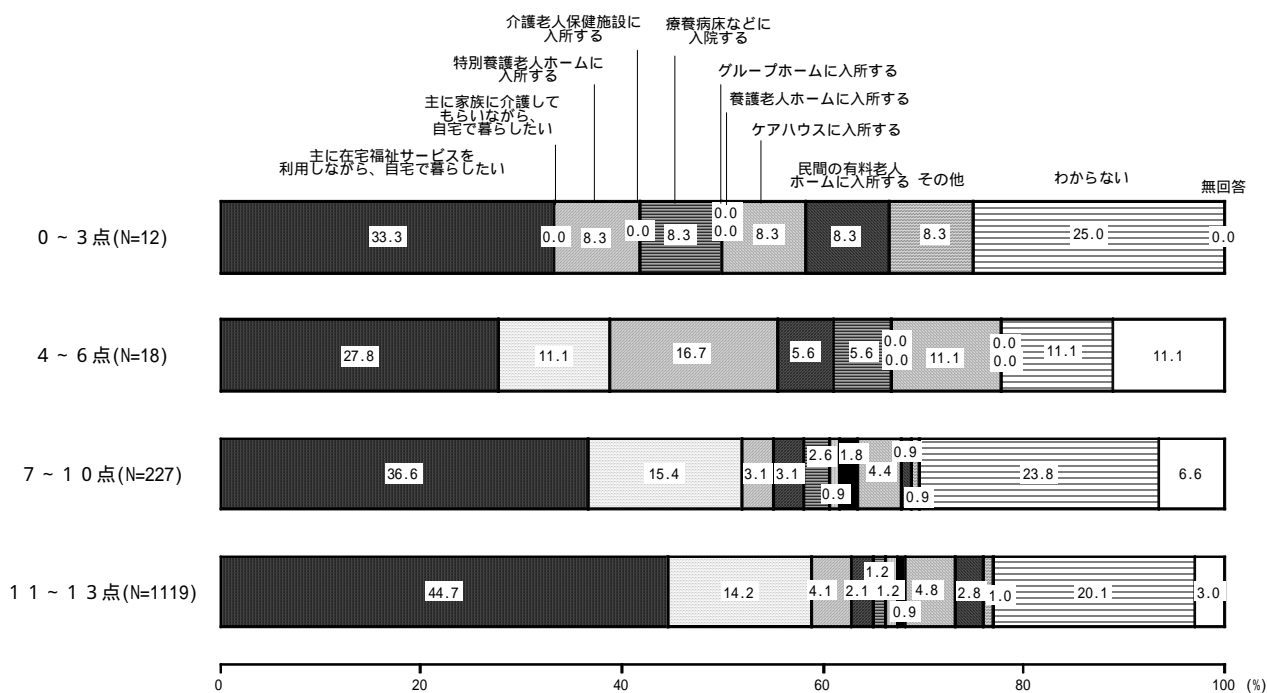
図 1-3 病気・老化の予防のために取り組んでいること（心身の変化に対する意識別）



心身の変化に対する意識別にみると、「日ごろからよく気をつけて改善に取り組んでいる」と人と、「あまり気をつけていない」または「まったく気をつけていない」人では、運動や食事、規則正しい生活などの項目のほか、「趣味や生きがいをもつ」「人との会話や交流をもつ」などの項目においても、取り組み割合に大きな差がみられる。

(3) 住まいと介護について希望する暮らし方

図 1-4 住まいと介護について希望する暮らし方（高次A D L 別）



高次A D L の得点別にみると、得点の高い人ほど自宅での生活を希望する割合が高くなっている。

(4) 在宅生活を続けていく上で必要な支援

図 1-5 在宅生活を続けていく上で必要な支援 (将来希望する暮らし方別)

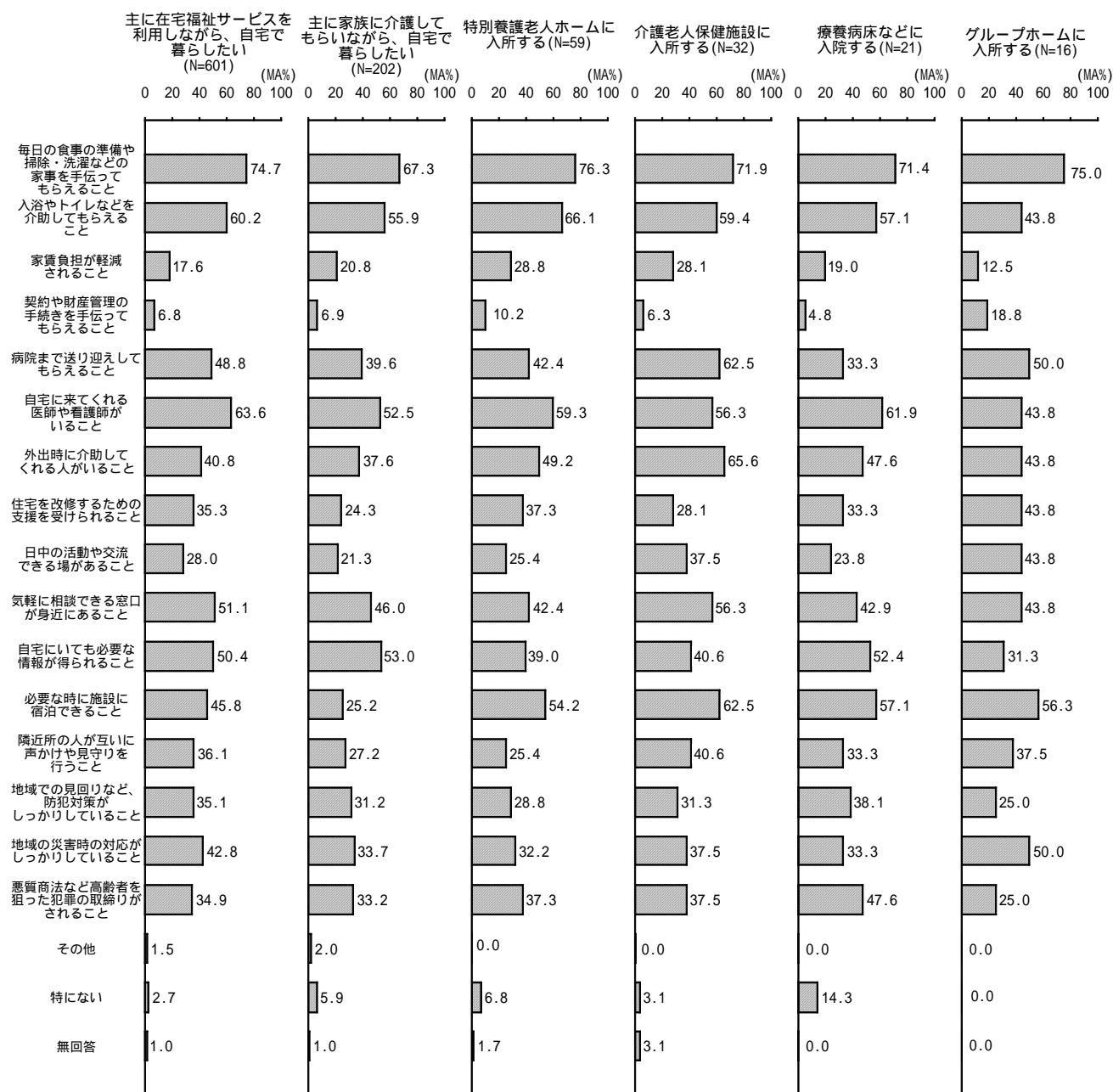
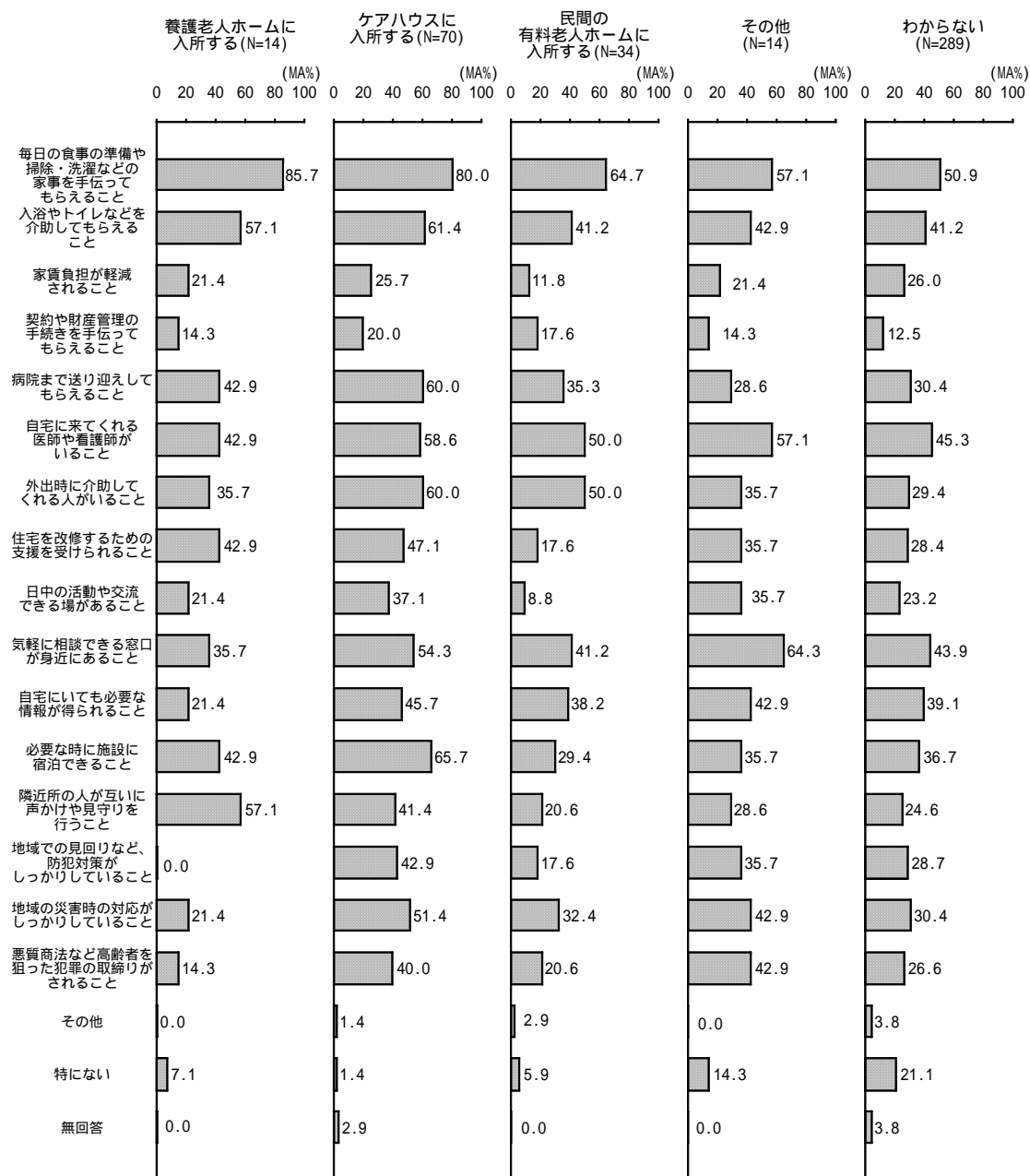


図 1-5 在宅生活を続けていく上で必要な支援（将来希望する暮らし方別）



在宅生活を続けていく上で必要な支援を、介護や介助が必要になった場合に希望する暮らし方別にみると、「主に在宅福祉サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」人では、「毎日の食事の準備や掃除・洗濯などの家事を手伝ってもらえること」が74.7%と最も高く、「自宅に来てくれる医師や看護師がいること」「入浴やトイレなどを介助してもらえること」も6割台となっている。

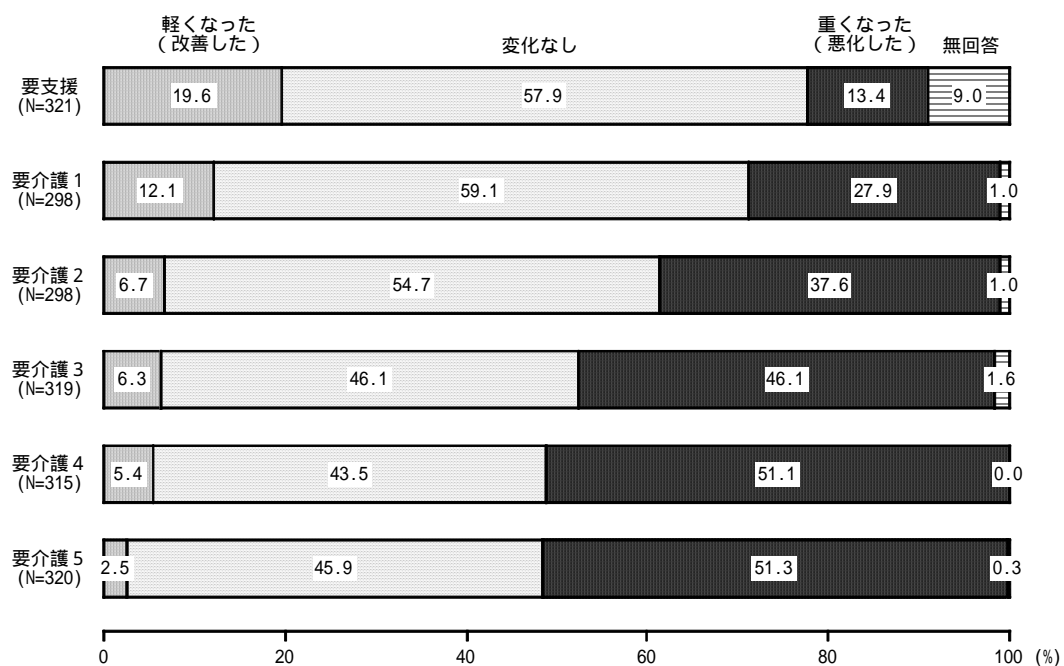
施設入所を希望する人では、「毎日の食事の準備や掃除・洗濯などの家事を手伝ってもらえること」が概ね7～8割台と特に高くなっている。

主なクロス集計結果（居宅サービス利用者調査）

1 要介護度の変化

（１）要介護度の変化

図 1-1 要介護度の変化（要介護度別）

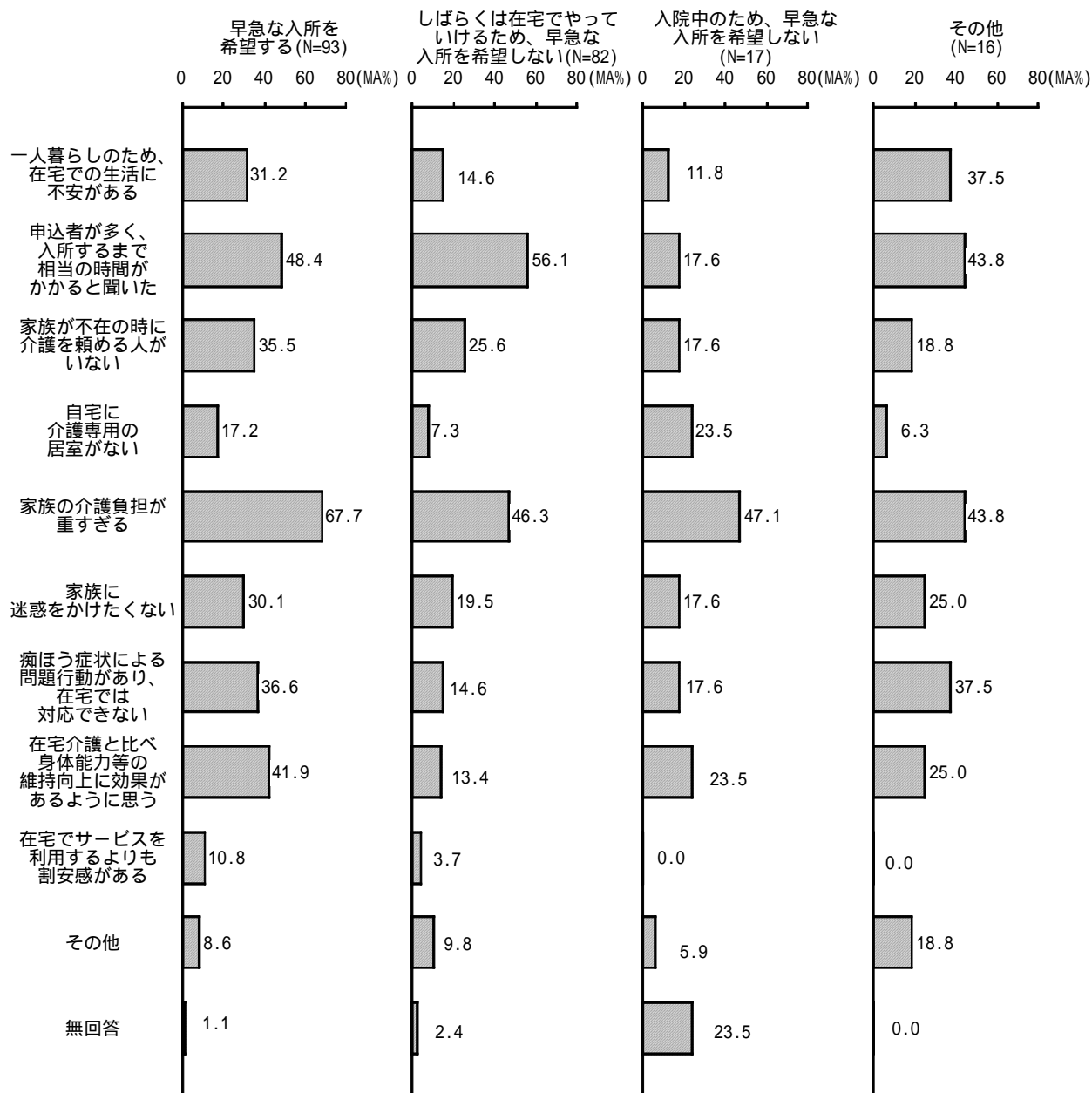


要介護度が上がるにしたがって「重くなった（悪化した）」割合は増加し、要介護 4 及び 5 では約 5 割を占めている。「軽くなった（改善した）」は、要支援で 19.6%、要介護 1 で 12.1% みられるほかは、1 割未満となっている。

2 介護保険施設への入所申込状況

(1) 施設への入所申込みの背景

図 2-1 入所申込みをした理由（施設への早急な入所希望別）



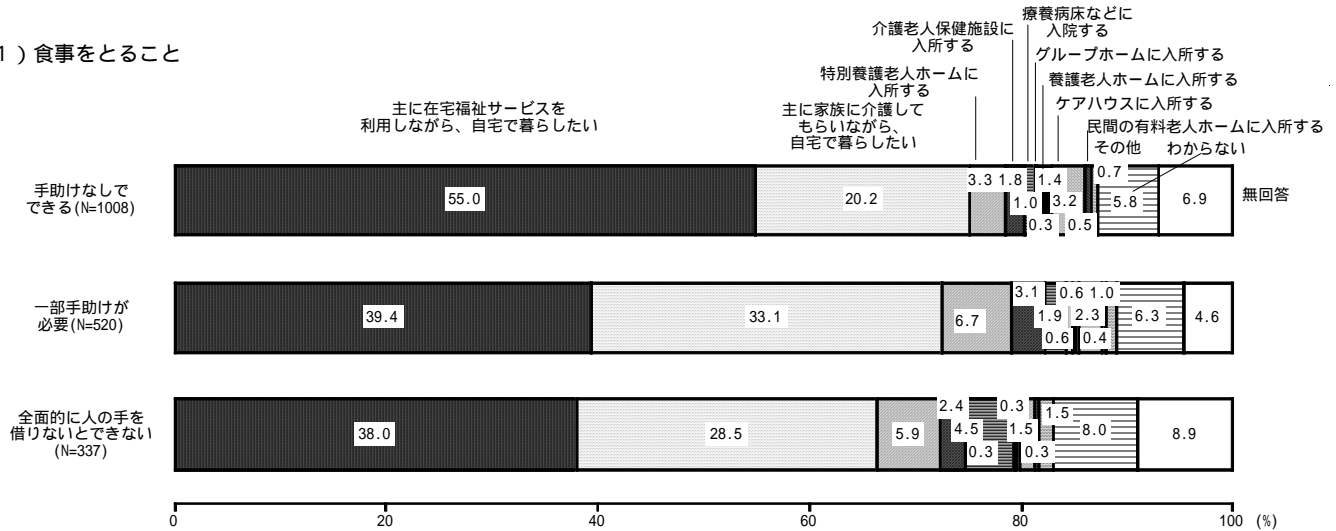
施設に入所申込みをした理由を早急な入所希望の有無別にみると、早急な入所を希望する人では、「家族の介護負担が重すぎる」が67.7%と最も多く、次いで「申込者が多く、入所するまで相当の時間がかかると聞いた」48.4%となっている。他方、「しばらくは在宅でやっていけるため、早急な入所を希望しない」人では、「申込者が多く、入所するまで相当の時間がかかると聞いた」が56.1%と最も多くなっている。

3 介護のあり方について

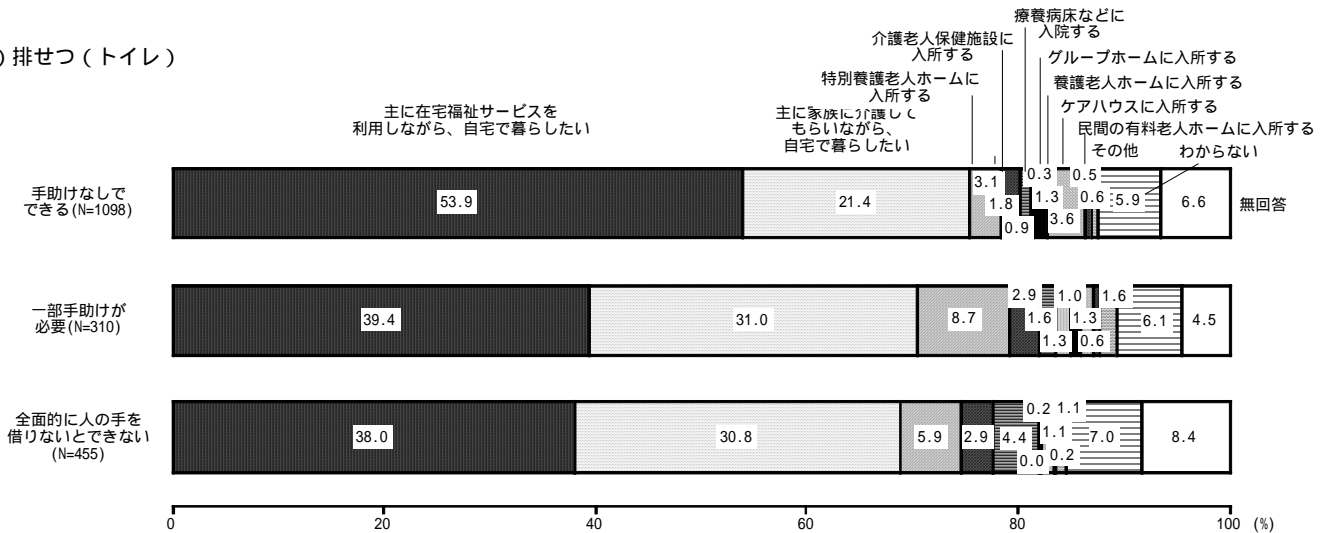
(1) 住まいと介護について希望する暮らし方

図 3-1 住まいと介護について希望する暮らし方 (基本的A D L別)

(1) 食事をとること



(2) 排せつ(トイレ)



(3) 着替え

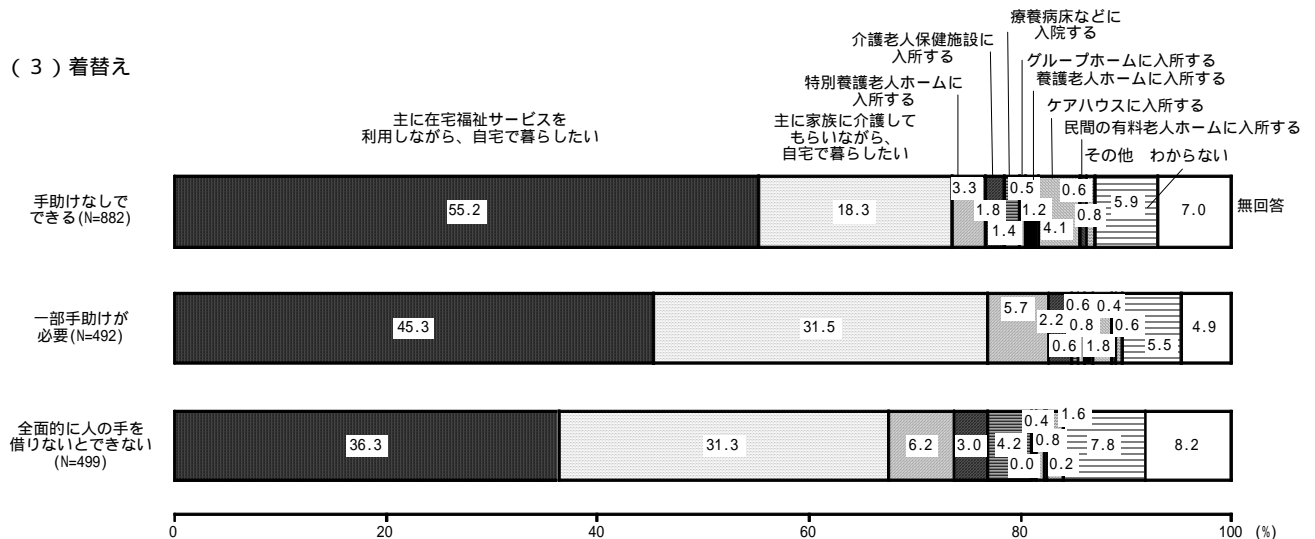
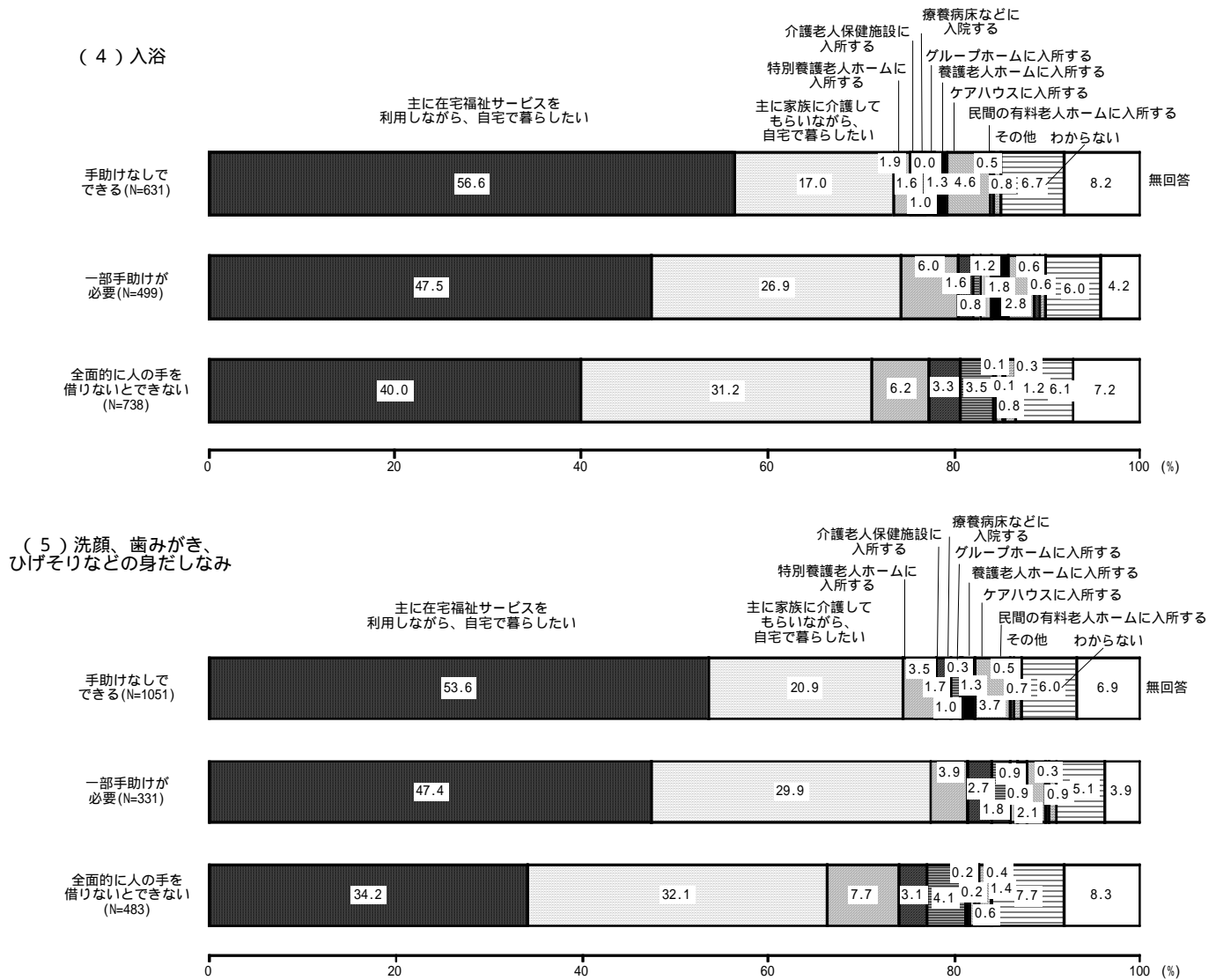
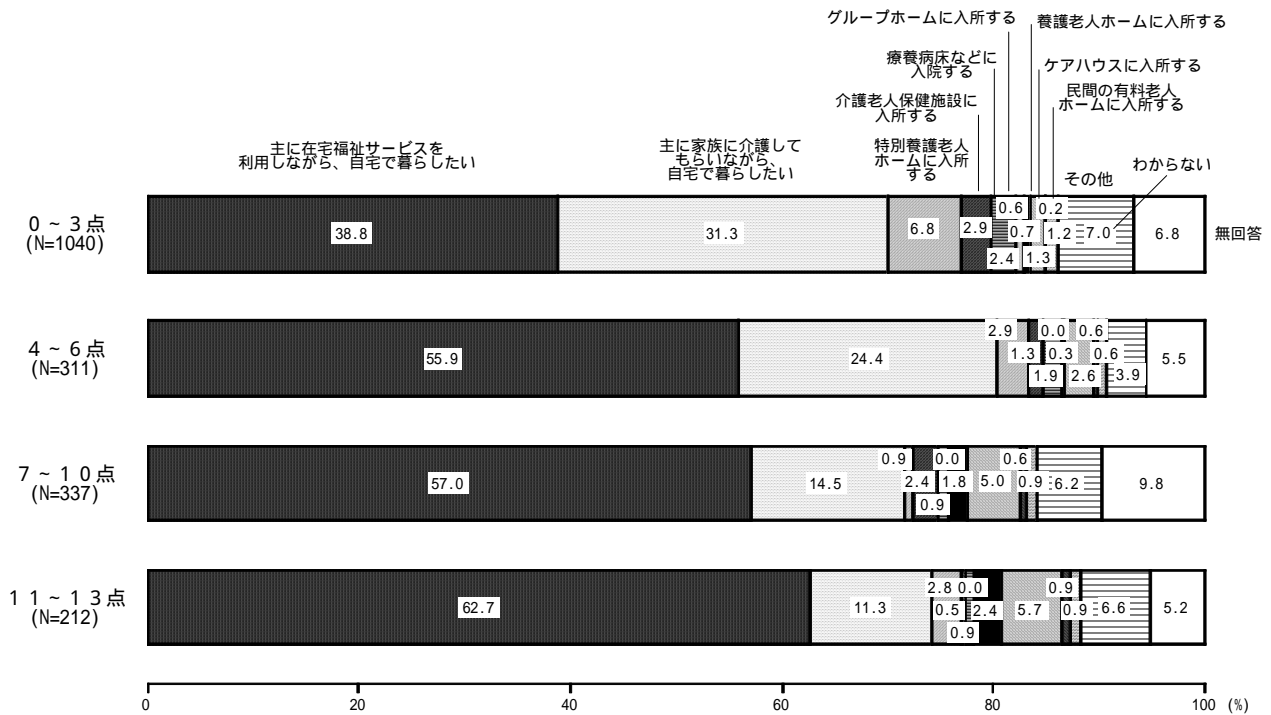


図 3-1 住まいと介護について希望する暮らし方（基本的A D L 別）



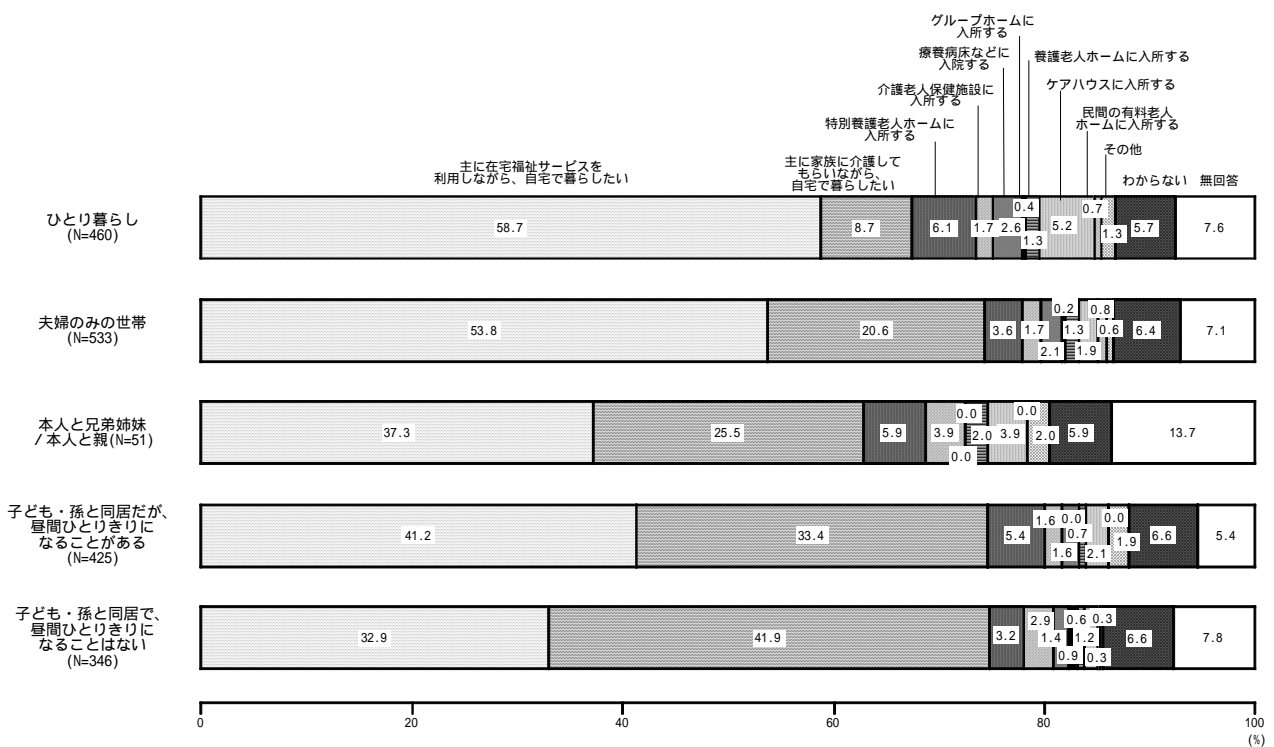
介護が必要となった場合に希望する暮らし方を基本A D L の別にみると、「一部手助けが必要」な人、「全面的に人の手を借りないとできない」人ともに、概ね7～8割が自宅での生活を希望している。全般的に、自立度が高いほど「主在宅福祉サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」と回答する傾向がみられる。

図3-2 住まいと介護について希望する暮らし方（高次ADL別）



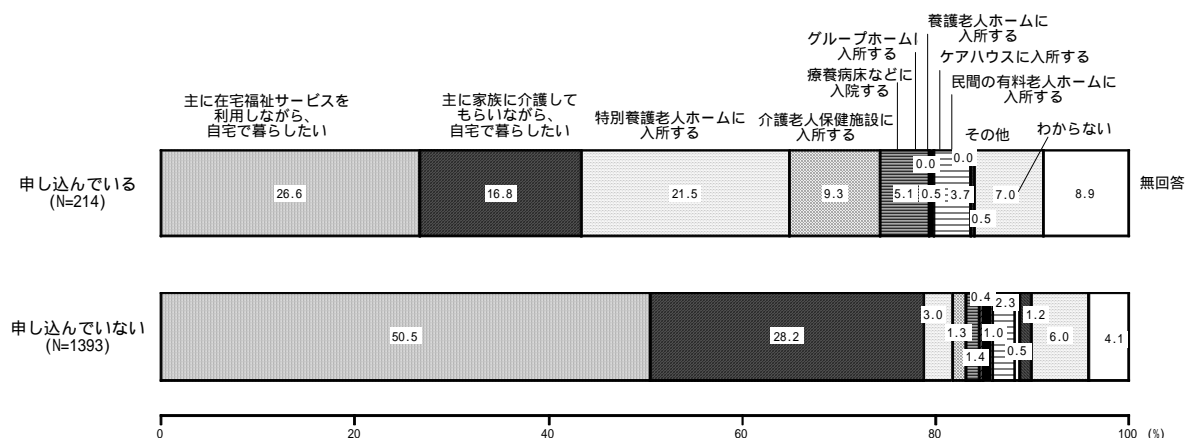
高次ＡＤＬの別にみると、得点の高い人ほど「主に在宅福祉サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」割合が高くなっている。

図 3-3 住まいと介護について希望する暮らし方（家族介護力別）



家族介護力別にみると、「ひとり暮らし」および「夫婦のみの世帯」では、「主に在宅福祉サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」が5割台を占めている。自宅以外の施設等（介護保険施設を含む）を希望する割合は、「ひとり暮らし」で18.0%と最も高いが、その他の世帯類型でも1割台となっている。

図 3-4 住まいと介護について希望する暮らし方（施設への入所申し込みの有無別）



施設への入所申し込みの有無別にみると、申込者では4割が自宅以外の施設等（介護保険施設を含む）を希望しており、「特別養護老人ホームに入所する」21.5%、次いで「介護老人保健施設に入所する」9.3%となっている。

他方、入所申込みをしていない人では、「主に在宅福祉サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」が50.5%、「主に家族に介護してもらいながら、自宅で暮らしたい」が28.2%となっており、自宅希望が8割近くを占めている。

(2) 在宅生活を続けていく上で必要な支援

図 3-5 在宅生活を続けていく上で必要な支援 (将来希望する暮らし方別)

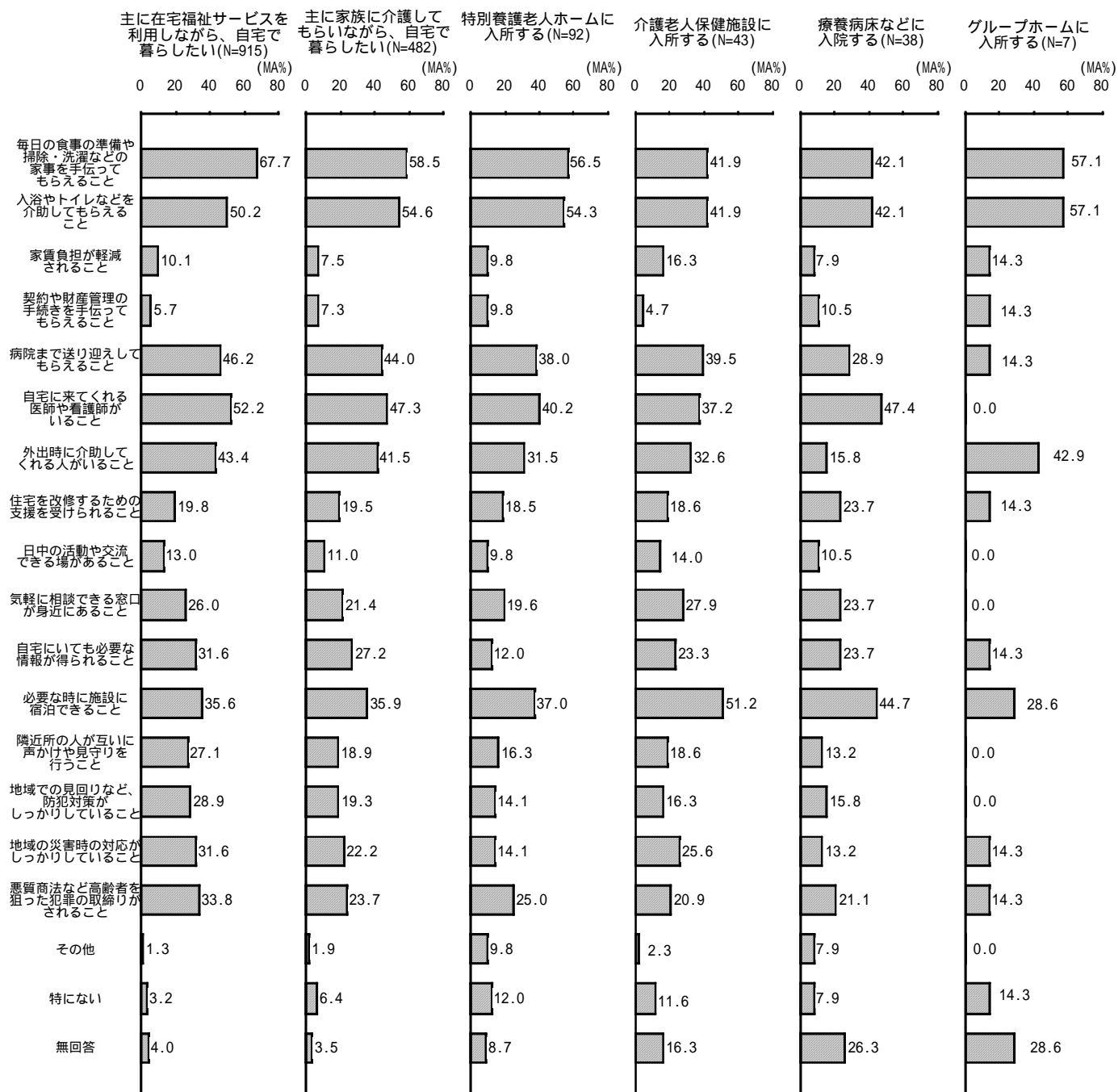
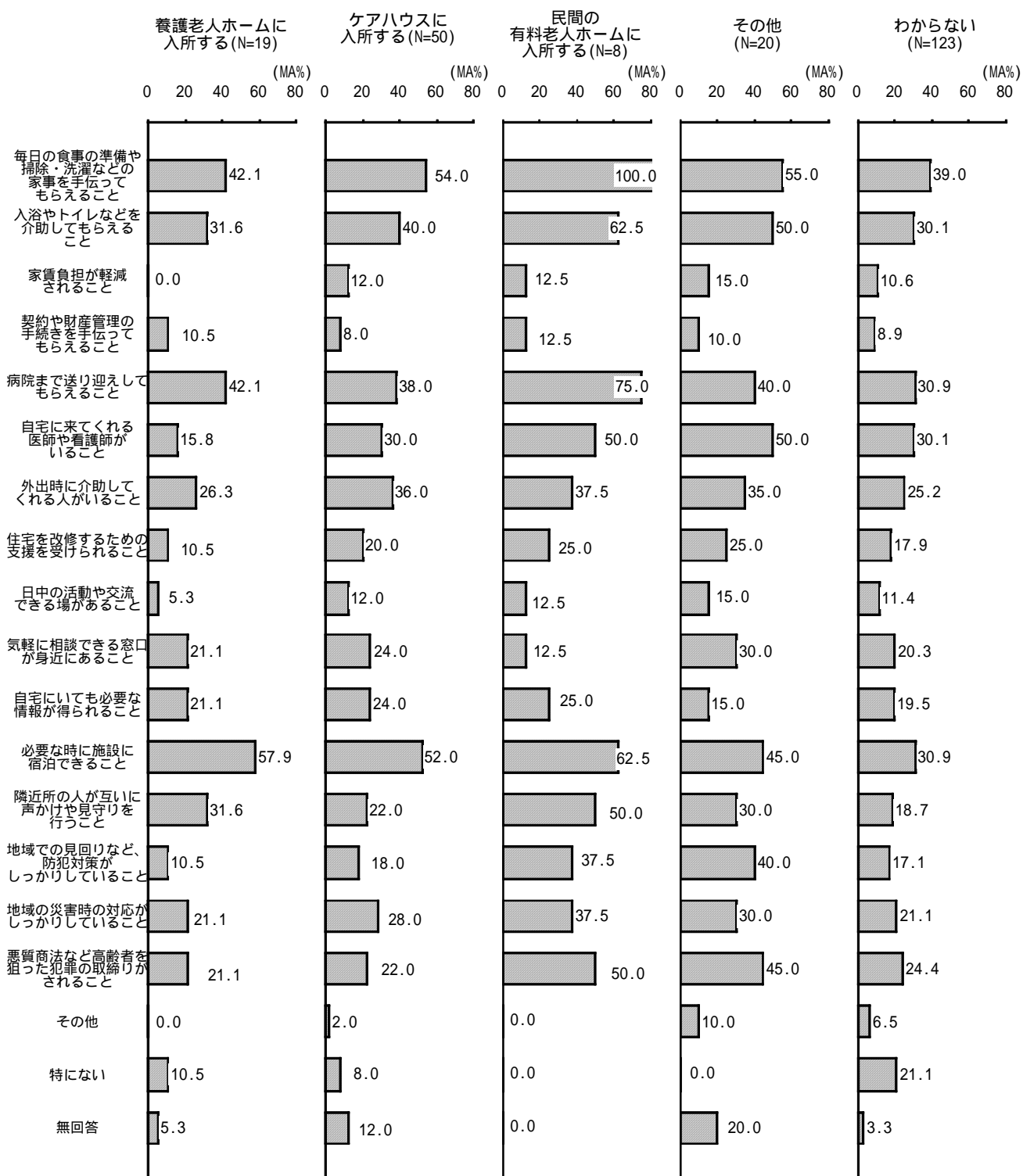


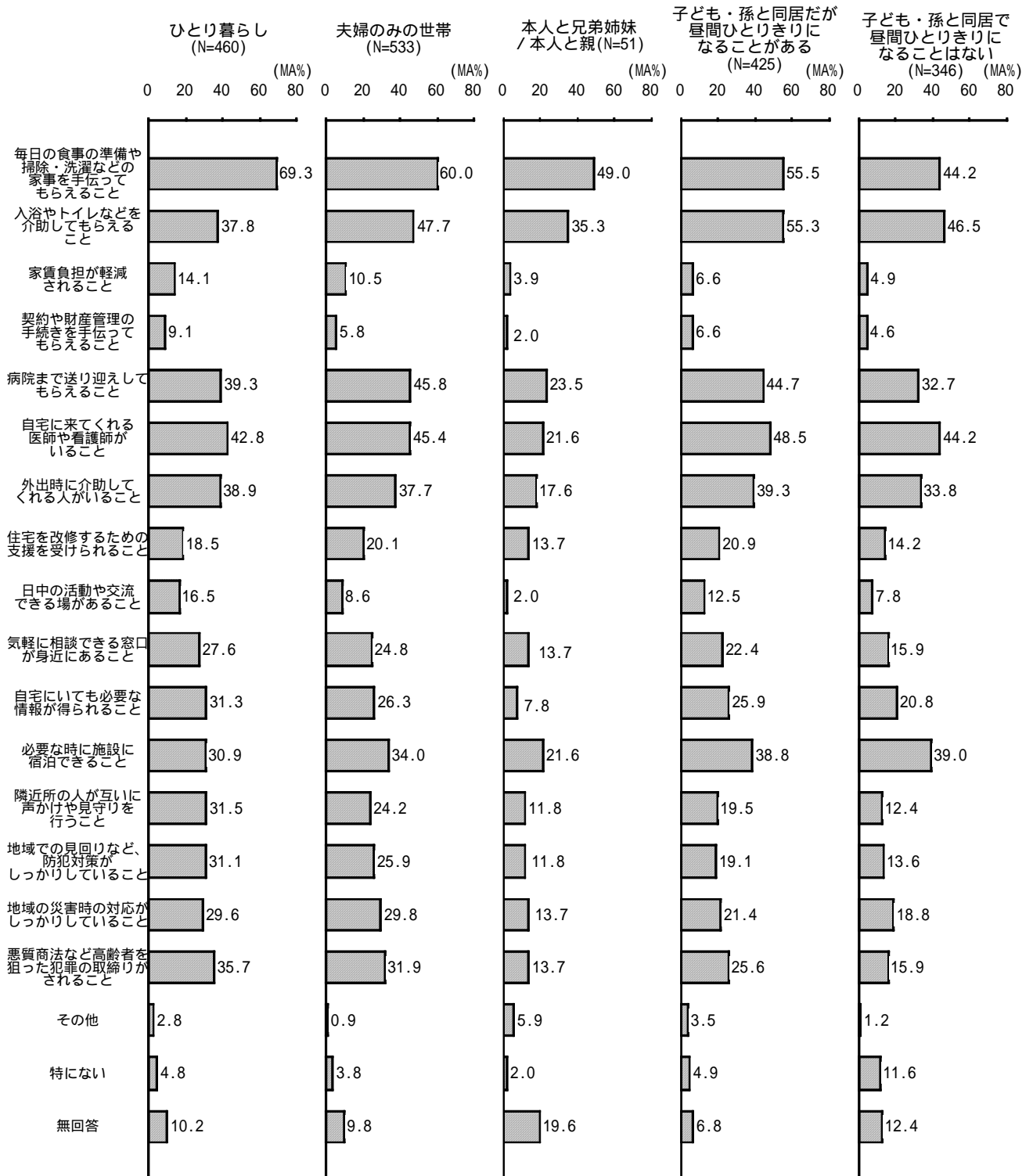
図 3-5 在宅生活を続けていく上で必要な支援（将来希望する暮らし方別）



在宅生活を続けていく上で必要な支援を、介護や介助が必要になった場合に希望する暮らし方別にみると、「主に在宅福祉サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」人では、「毎日の食事の準備や掃除・洗濯などの家事を手伝ってもらえること」が67.7%と最も高く、次いで「自宅に来てくれる医師や看護師がいること」「入浴やトイレなどを介助してもらえること」がともに50%強となっている。

介護老人保健施設やケアハウス等への入所を希望する人では、「必要な時に施設に宿泊できること」が5割台となっている。

図 3-6 在宅生活を続けていく上で必要な支援（家族介護力別）

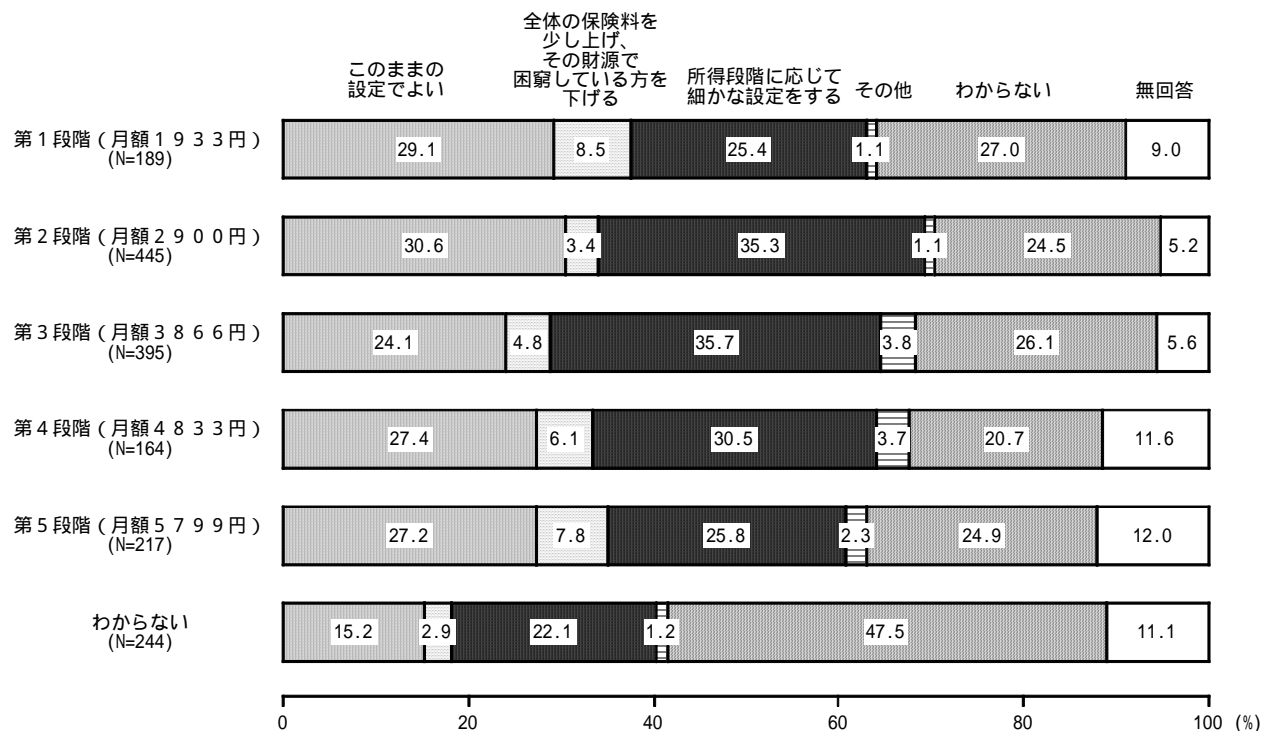


家族の介護力別にみると、「子ども等と同居だが、昼間一人きりになることがある」世帯では、「入浴やトイレなどを介助してもらえること」が55.3%と、他の世帯類型と比べて高くなっている。また、昼間独居状況の有無に関わらず、子ども・孫との同居世帯では、「必要な時に施設に宿泊できること」が4割近くとなっている。

4 介護保険制度について

(1) 介護保険料の設定についての意向

図 4-1 介護保険料の設定について（介護保険料の負担別）

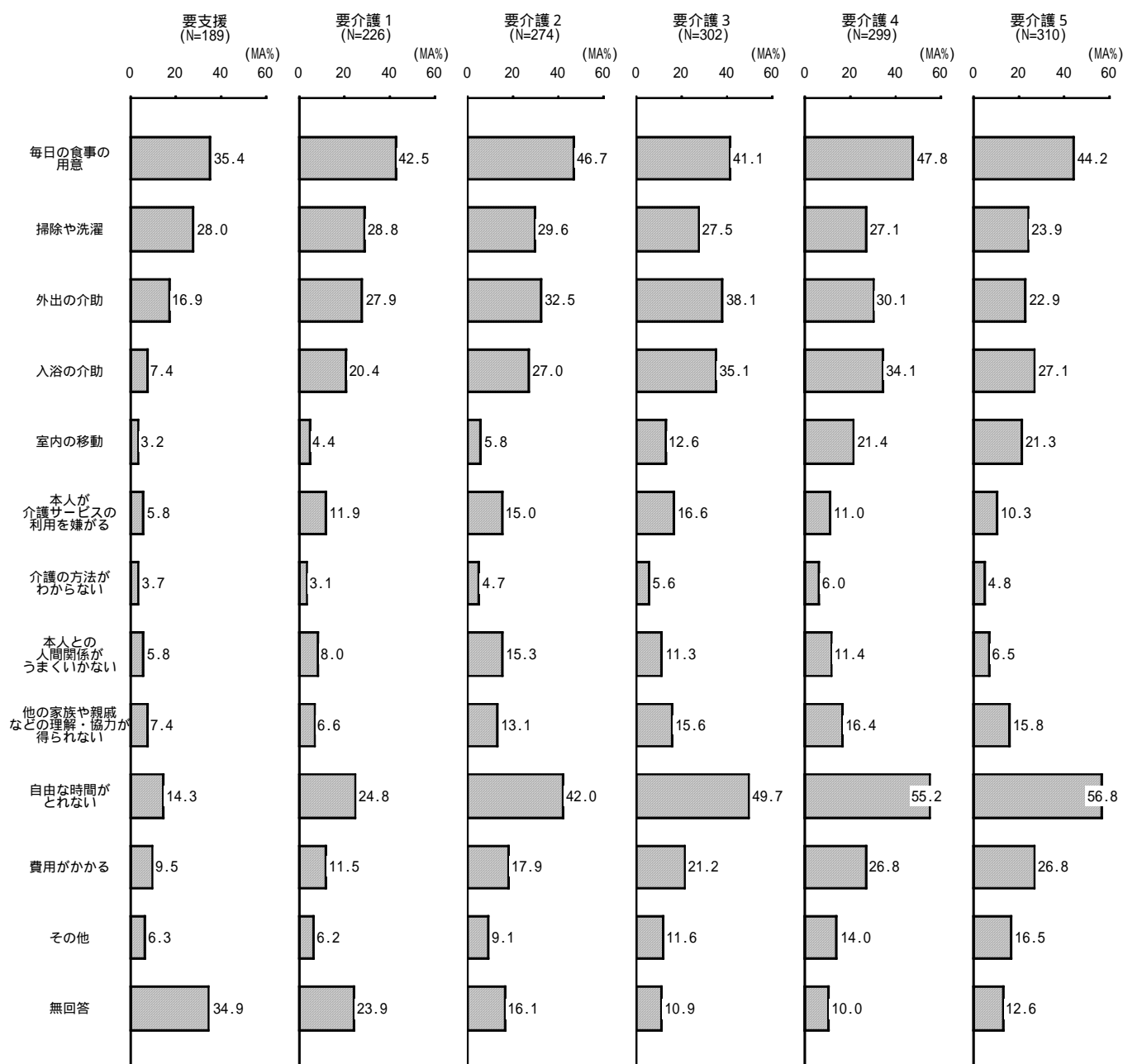


第1号被保険者の所得段階別保険料の設定方法について、介護保険料の段階別にみると、第2段階及び第3段階では「所得段階に応じて細かな設定をする」が35～36%みられる。

5 在宅介護の状況について

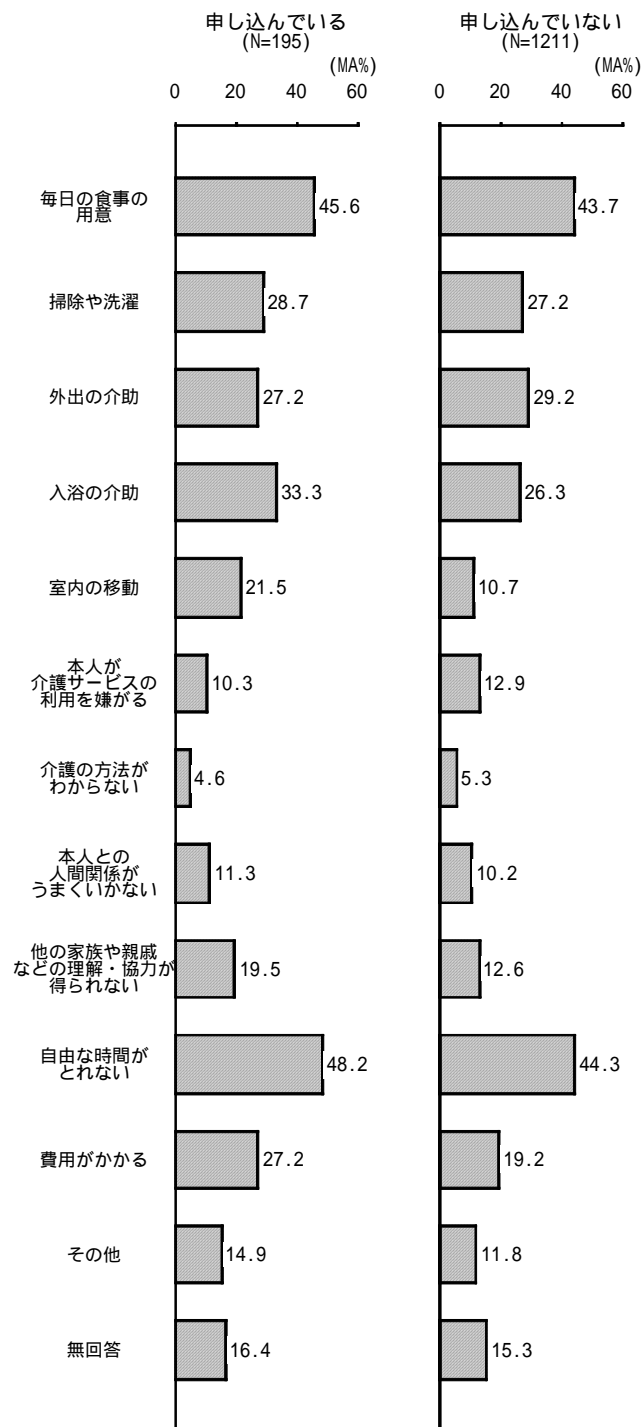
(1) 家庭での介護について負担を感じる内容

図 5-1 家庭での介護について負担を感じる内容（要介護度別）



家庭での介護のうち負担が大きいと感じる内容を要介護度別にみると、要支援～要介護2では「毎日の食事の用意」が最も多くなっている。「外出の介助」は要介護3で38.1%と最も高い。また、「自由な時間がとれない」は要介護度が上がるにしたがって高くなり、要介護5では56.8%となっている。

図 5-2 家庭での介護について負担を感じる内容（施設への入所申し込みの有無別）



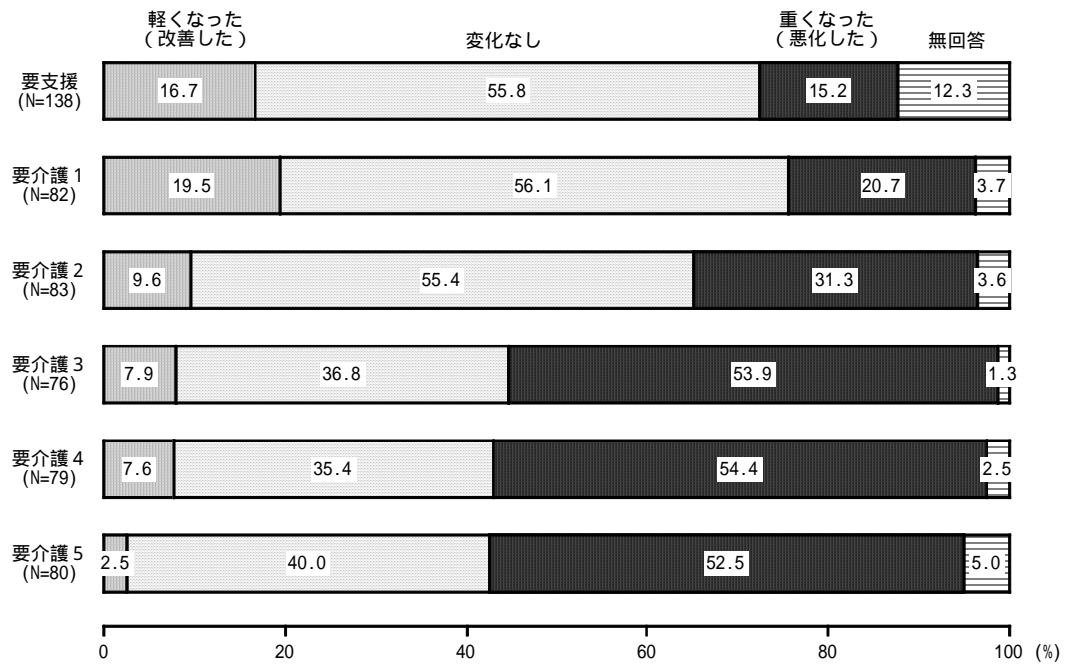
施設への申込みの有無別にみると、「入浴の介助」「室内の移動」「費用がかかる」などの項目については申込者の方が負担を感じる割合が高くなっている。

主なクロス集計結果（居宅サービス未利用者調査）

1 要介護度の変化

（１）要介護度の変化

図 1-1 要介護度の変化（要介護度別）

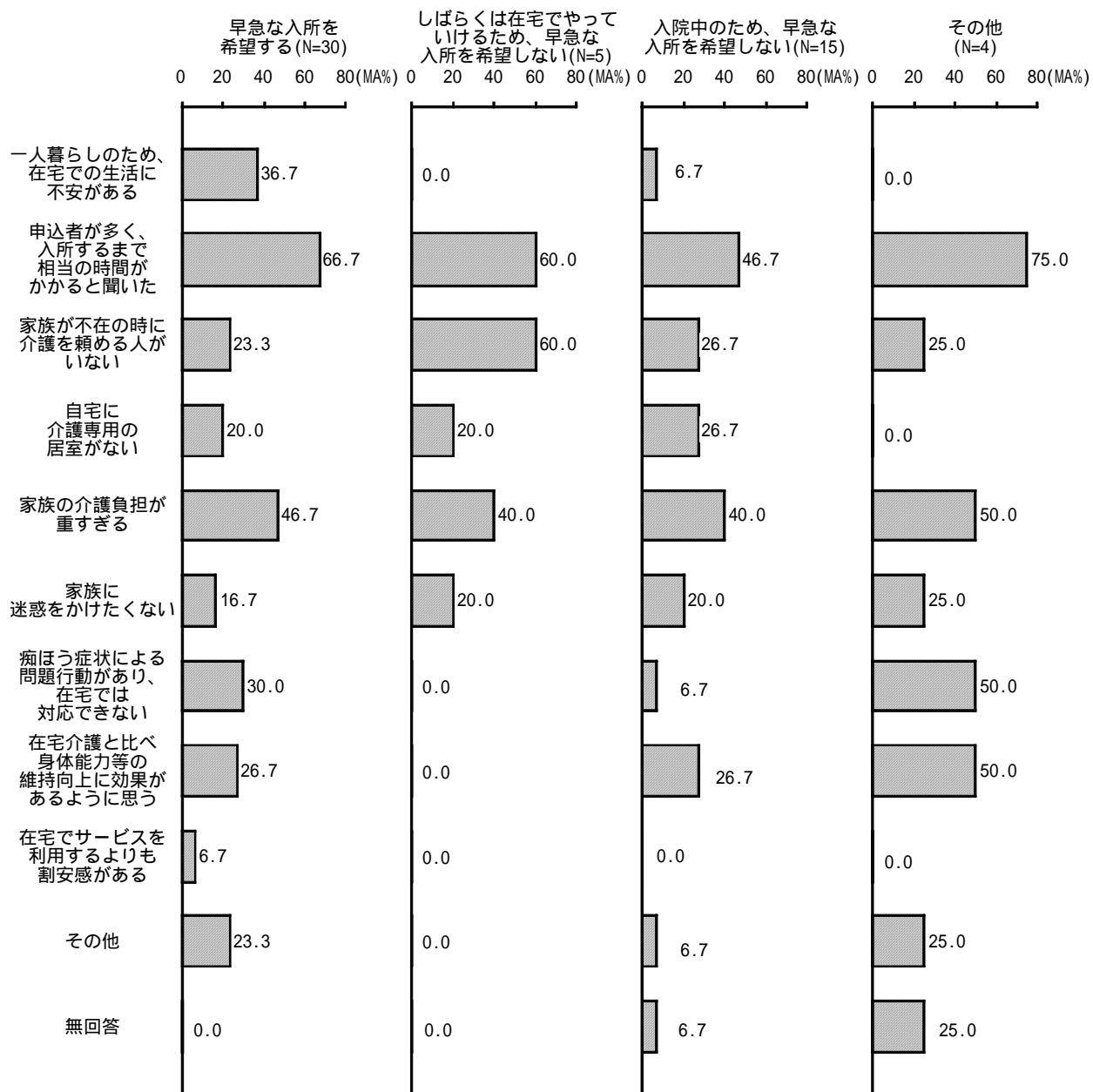


要介護度別にみると、要支援～要介護 2 では「変化なし」が 5 割台となっているのに対し、要介護 3 以上では「重くなった（悪化した）」が 5 割台を占めている。「軽くなった（改善した）」は、要介護 1 で 19.5%，要支援で 16.7%みられるほかは、1 割未満となっている。

2 介護保険施設への入所申込状況

(1) 施設への入所申込みの背景

図 2-1 入所申込みをした理由（施設への早急な入所希望別）



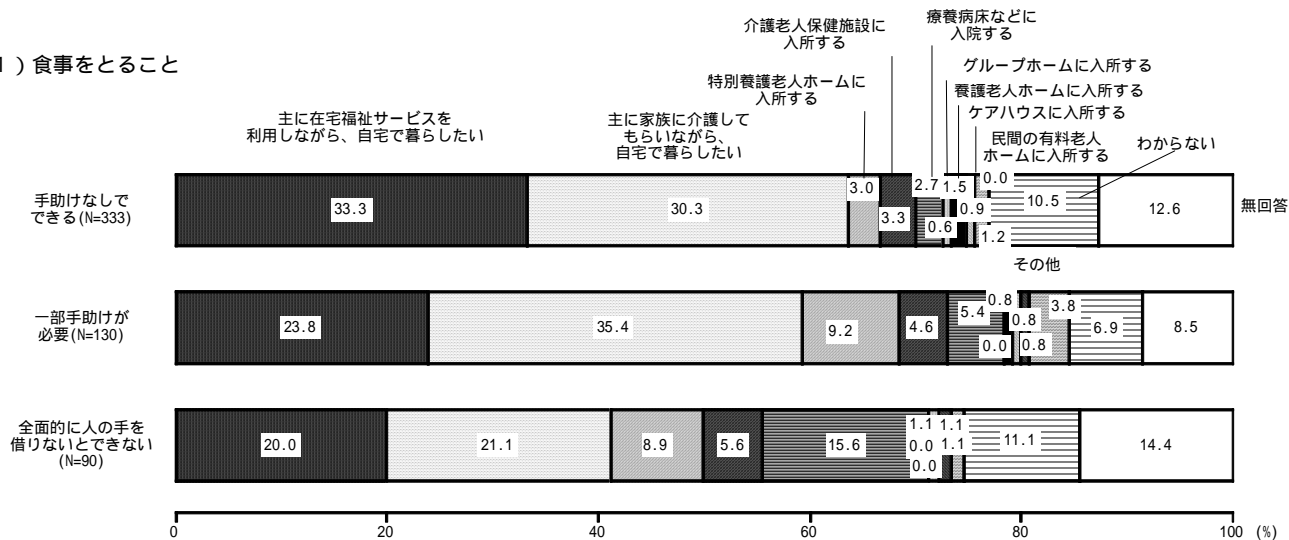
施設に入所申込みをした理由を早急な入所希望の有無別にみると、早急な入所を希望する人では、「申込者が多く、入所するまで相当の時間がかかると聞いた」が66.7%、「家族の介護負担が重すぎる」が46.7%と多く、「一人暮らしのため、在宅での生活に不安がある」「痴ほう症状による問題行動があり、在宅では対応できない」も3割台みられる。

3 介護のあり方について

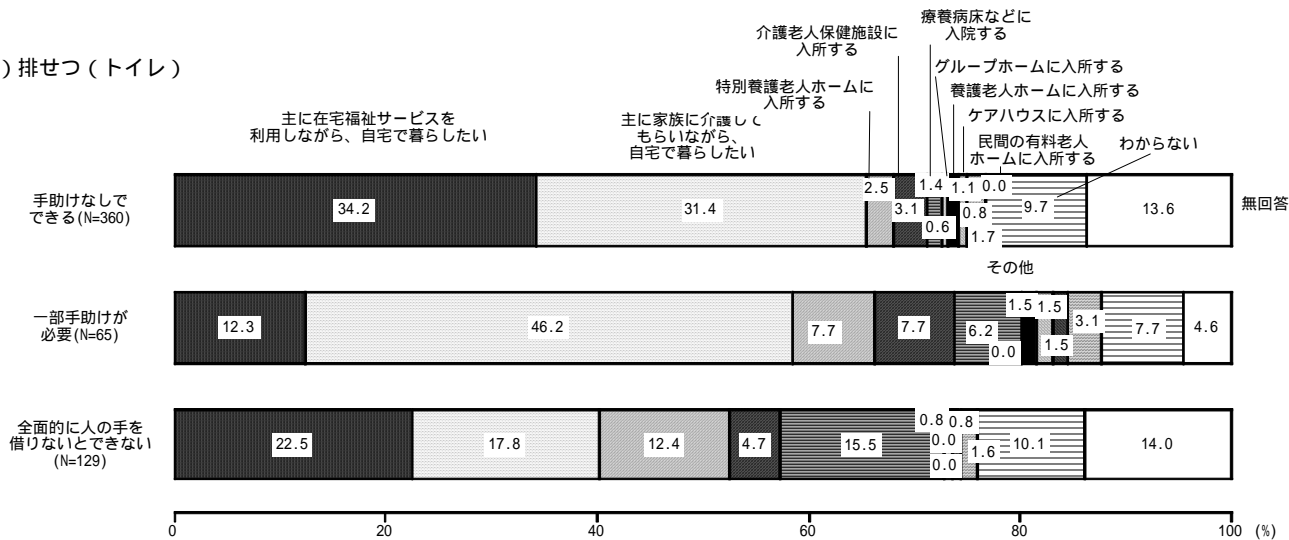
(1) 住まいと介護について希望する暮らし方

図 3-1 住まいと介護について希望する暮らし方 (基本的ADL別)

(1) 食事をとること



(2) 排せつ(トイレ)



(3) 着替え

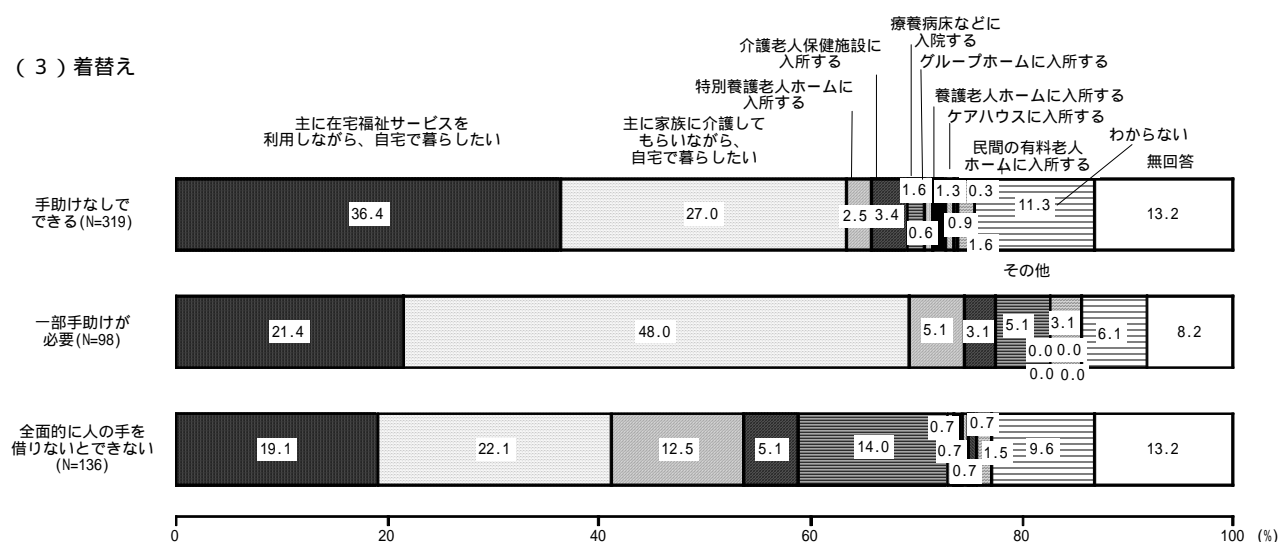
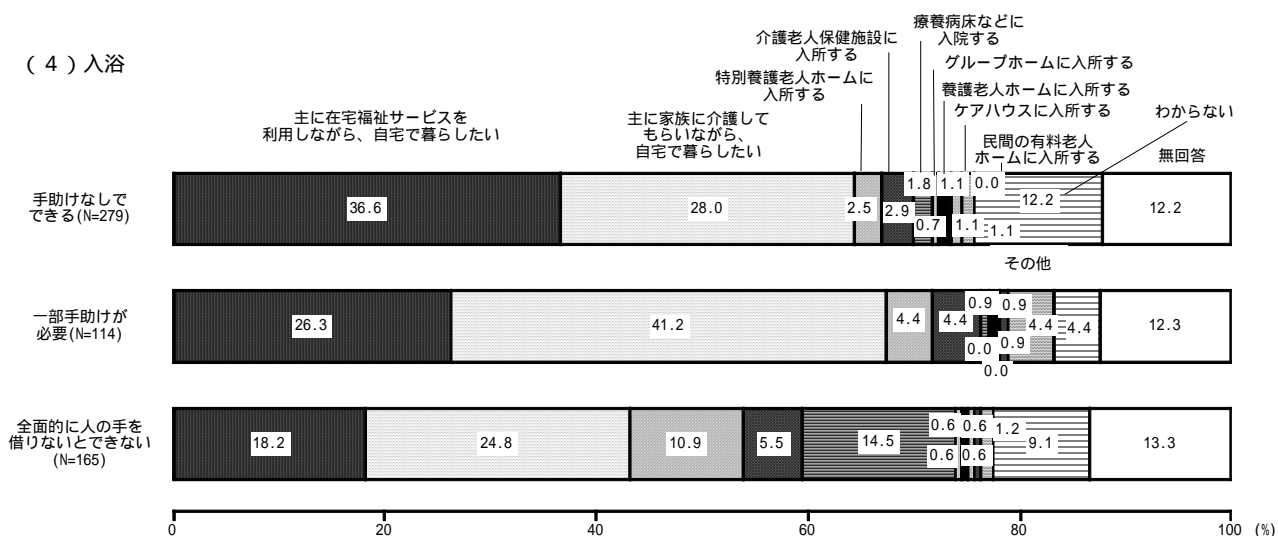
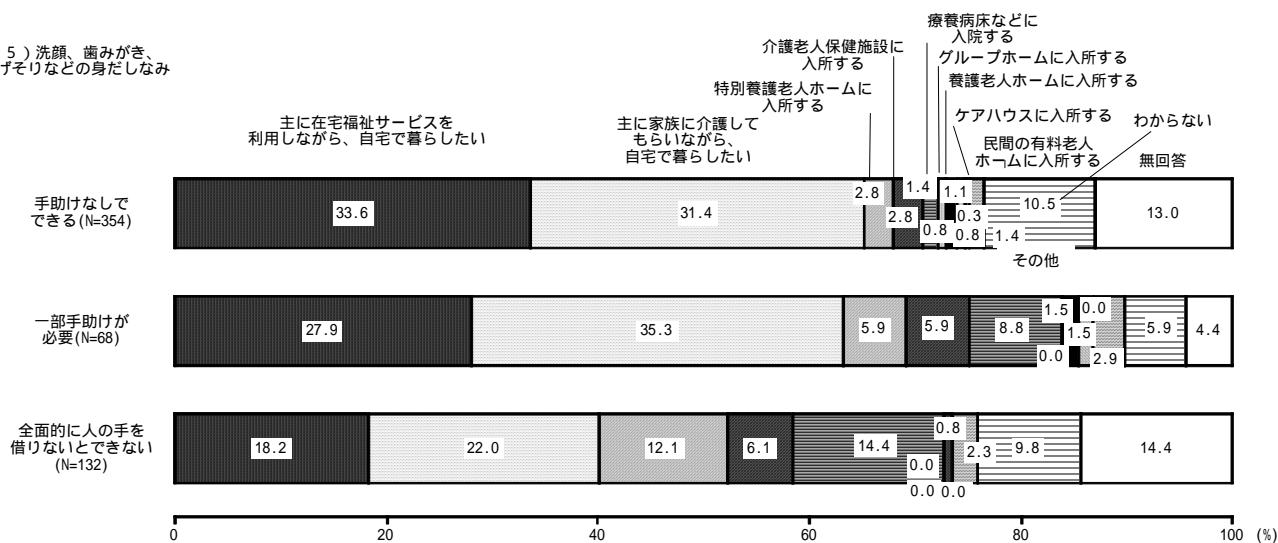


図3-1 住まいと介護について希望する暮らし方（基本的ADL別）

(4) 入浴



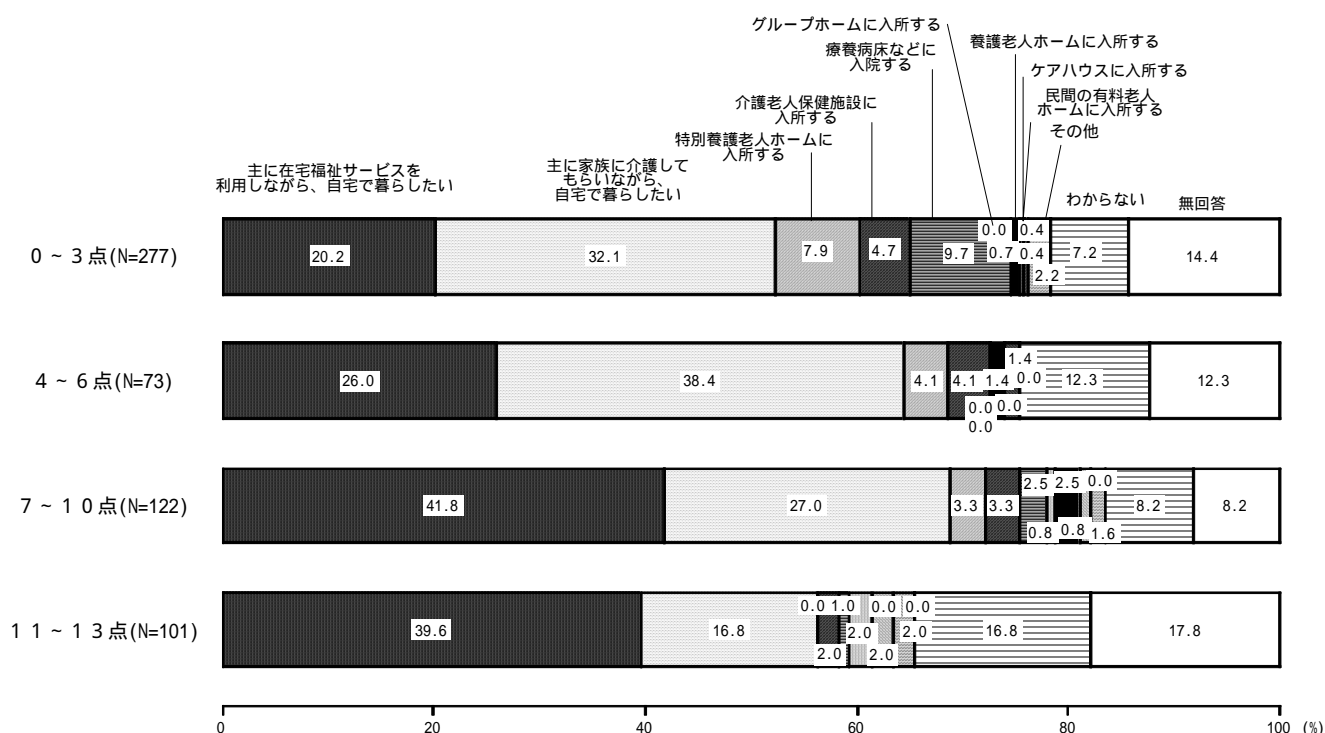
(5) 洗顔、歯みがき、
ひげそりなどの身だしなみ



介護が必要となった場合に希望する暮らし方を基本 A D L の別にみると、「一部手助けが必要」な人では、全般的に、「主在宅福祉サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」割合よりも「主に家族に介護してもらいながら、自宅で暮らしたい」の方が高くなっている。

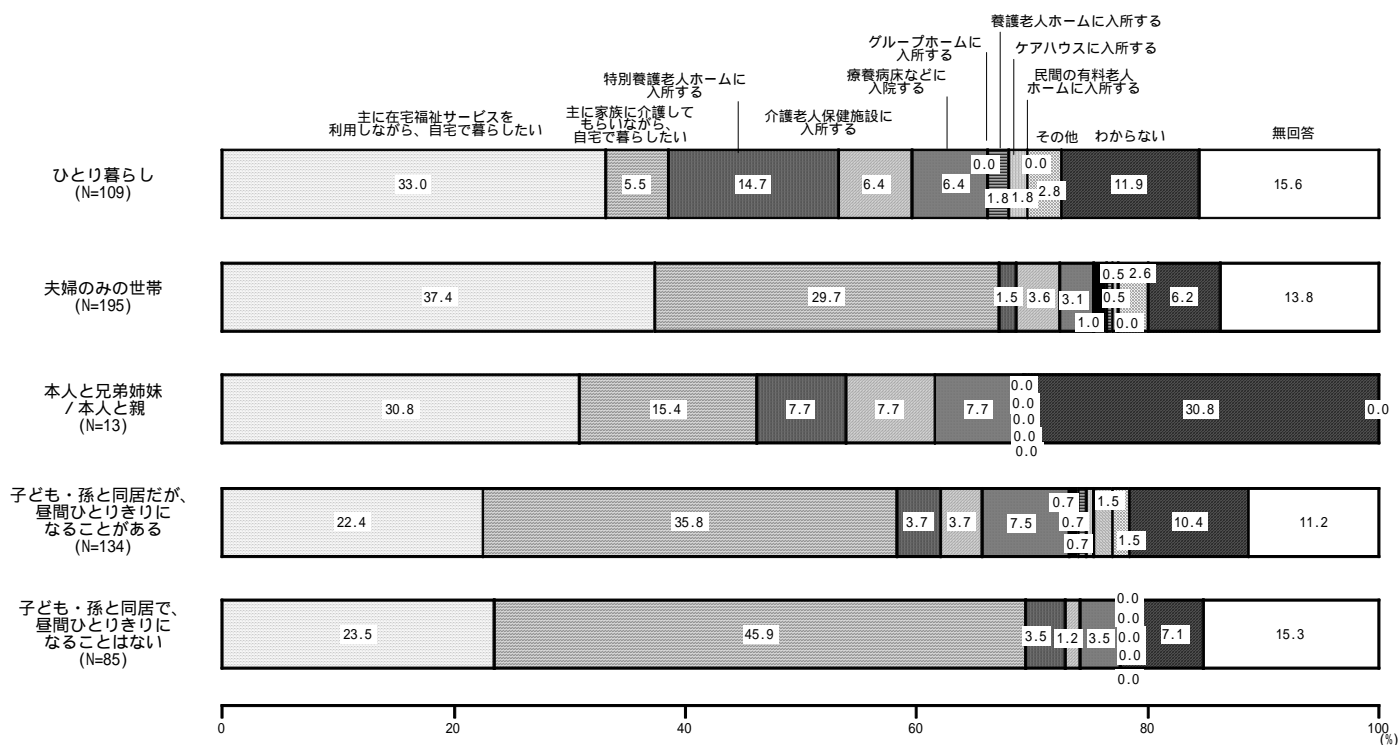
また、「全面的に人の手を借りないとできない」人では、自宅以外の施設等（介護保険施設を含む）を希望する割合が約 33～34%となっている。

図 3-2 住まいと介護について希望する暮らし方（高次A D L 別）



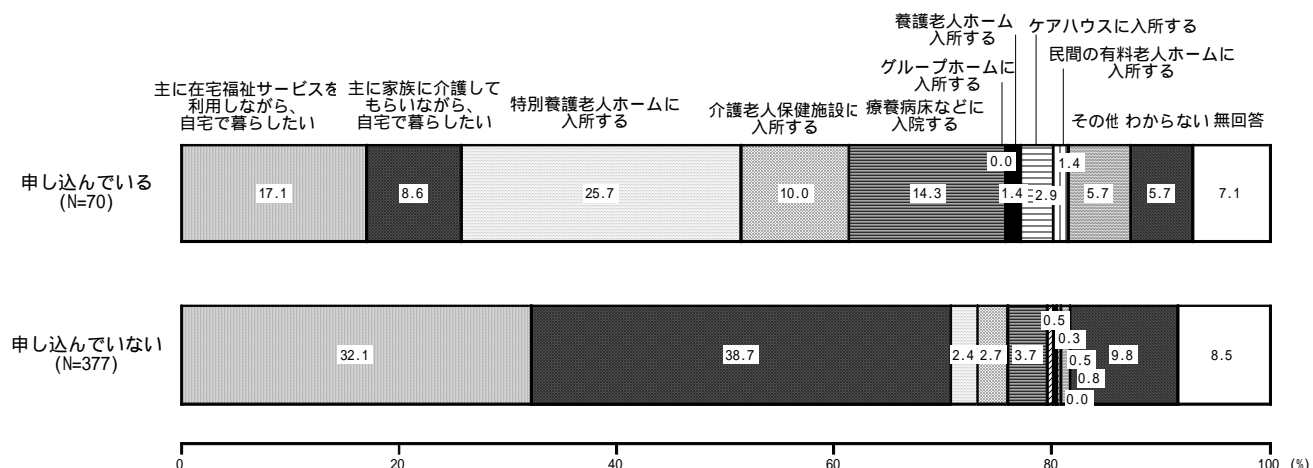
高次A D Lの別にみると、得点の高い人ほど「主に在宅福祉サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」割合が高い傾向にある。

図 3-3 住まいと介護について希望する暮らし方（家族介護力別）



家族介護力別にみると、自宅以外の施設等（介護保険施設を含む）を希望する割合は、「ひとり暮らし」で31.1%と最も高く、「本人と兄弟姉妹／本人と親」「子ども等と同居だが、昼間一人きりになることがある」世帯でも2割前後となっている。

図 3-4 住まいと介護について希望する暮らし方（施設への入所申し込みの有無別）



施設への入所申し込みの有無別にみると、申込者では半数以上が自宅以外の施設等（介護保険施設を含む）を希望しており、「特別養護老人ホームに入所する」25.7%、次いで「療養病床などに入院する」14.3%となっている。

他方、入所申し込みをしていない人では、「主に在宅福祉サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」が32.1%、「主に家族に介護してもらいながら、自宅で暮らしたい」が38.7%となっており、自宅希望が約7割を占めている。

(2) 在宅生活を続けていく上で必要な支援

図 3-5 在宅生活を続けていく上で必要な支援 (将来希望する暮らし方別)

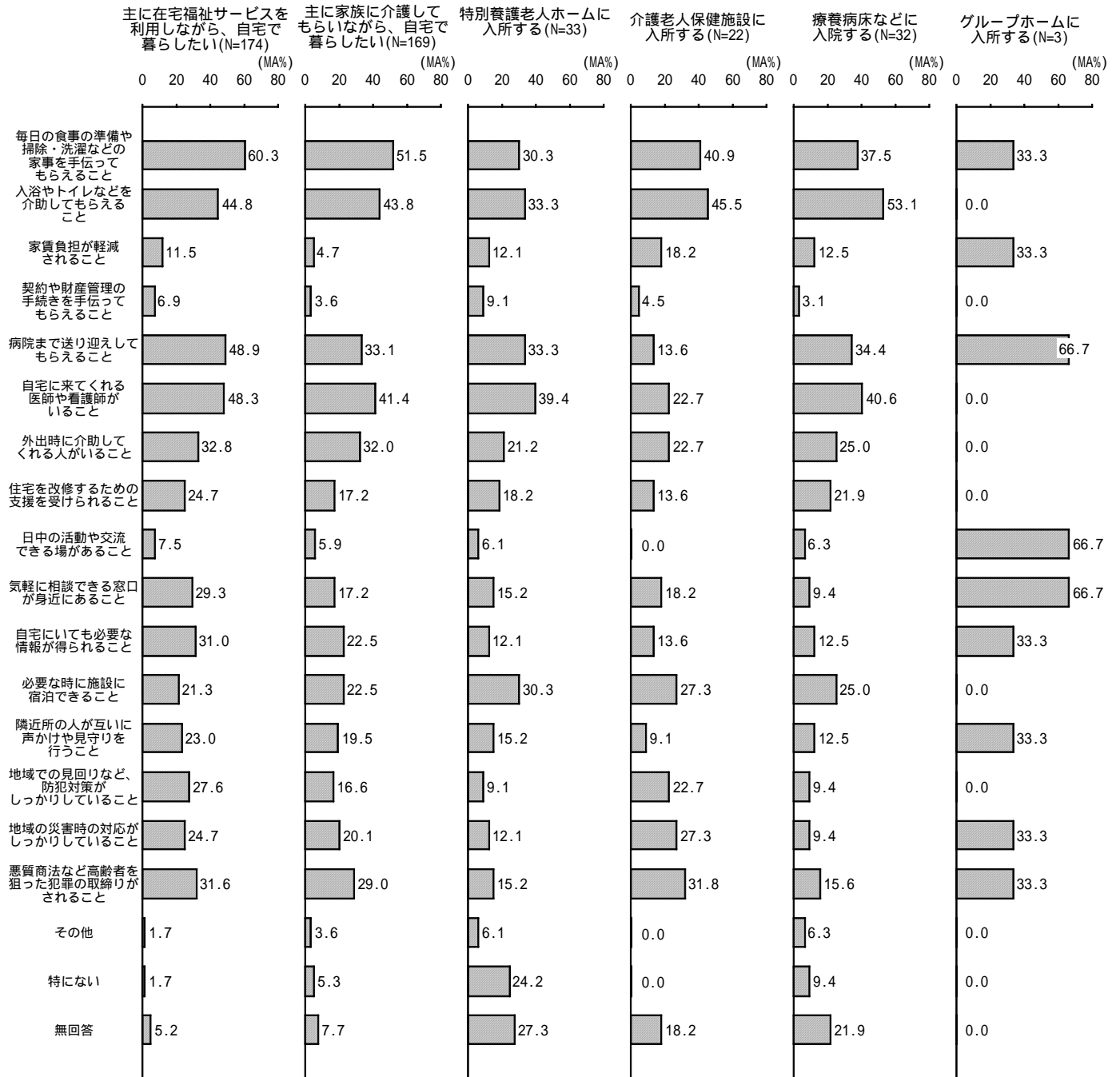
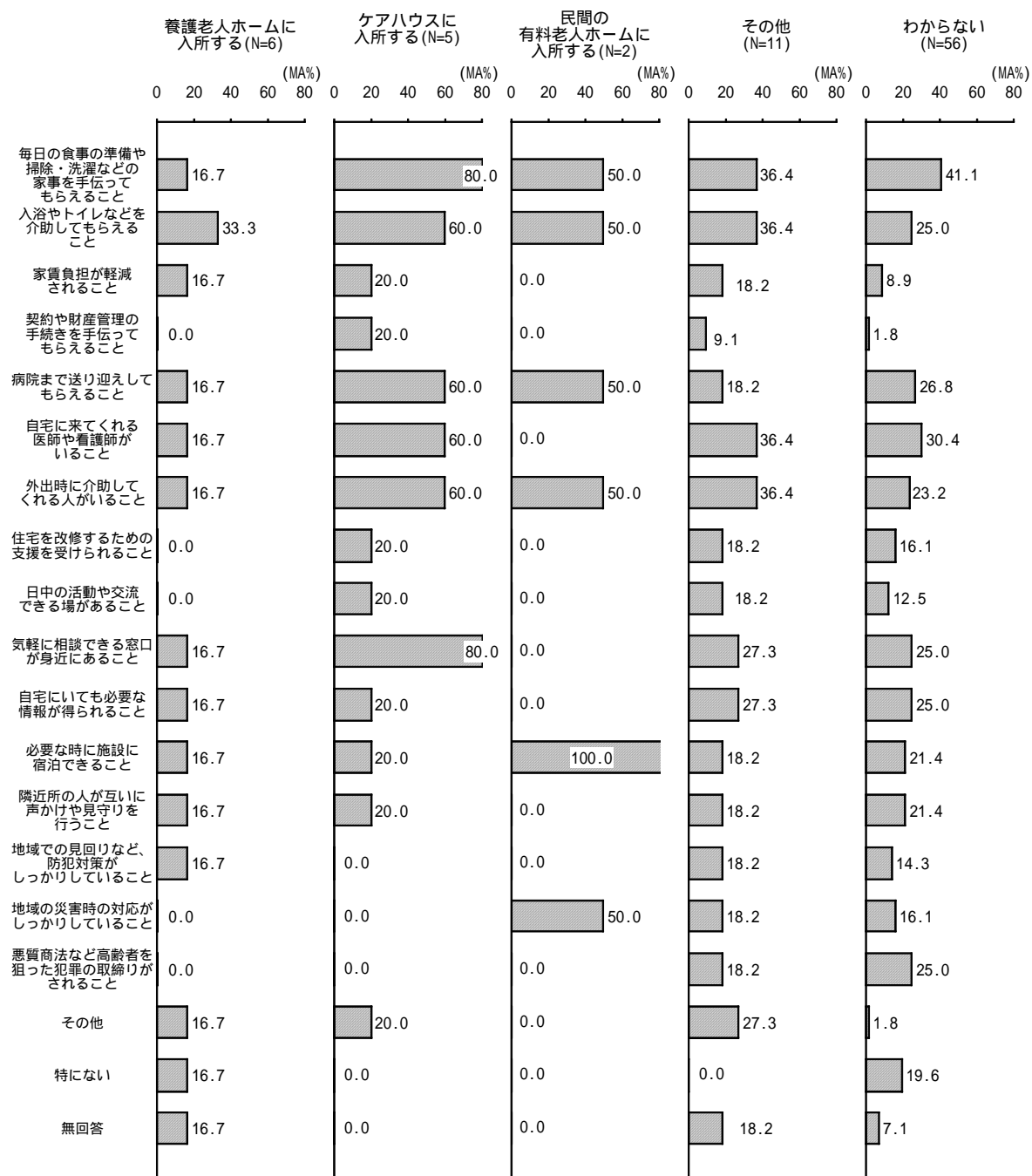
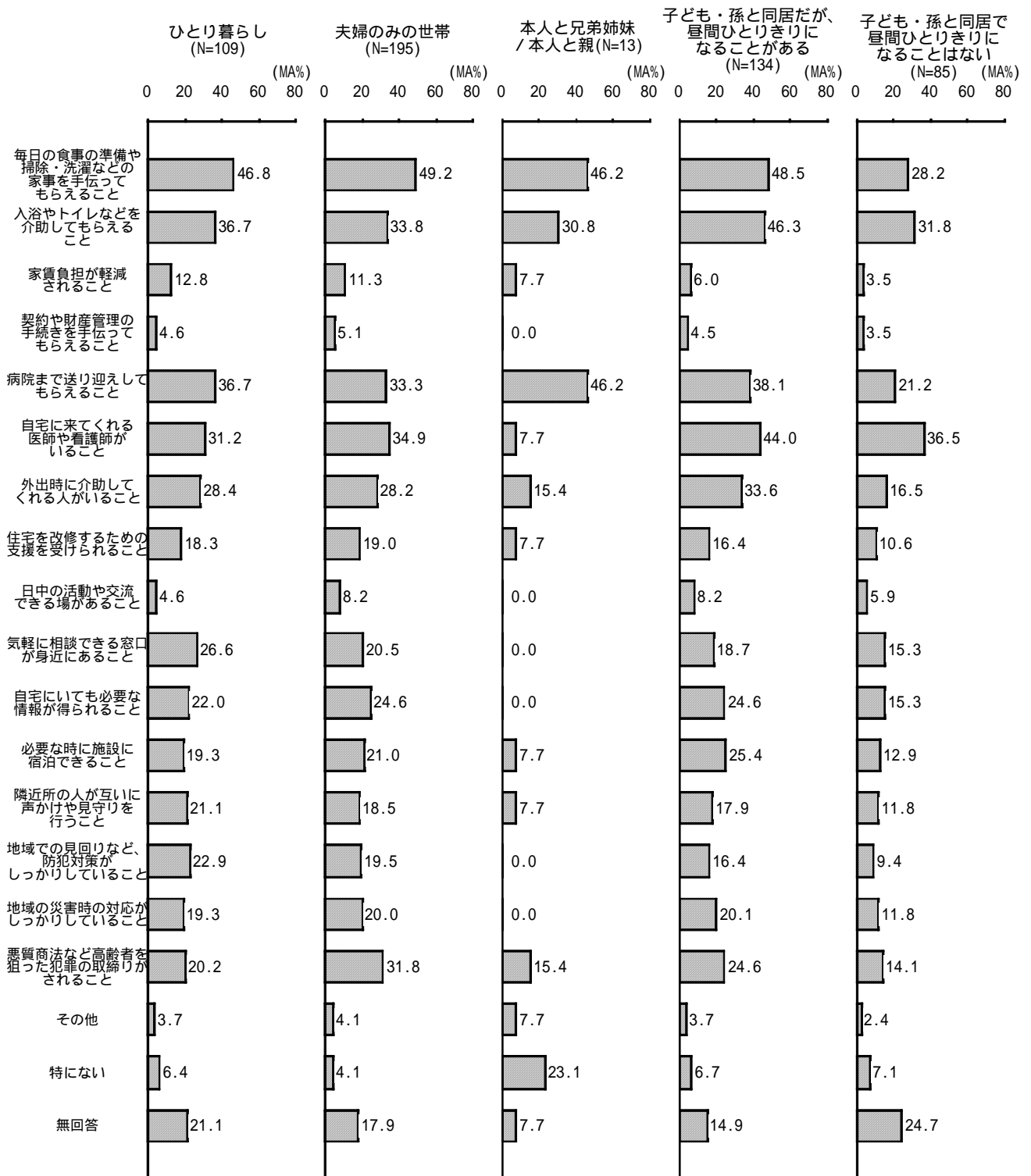


図 3-5 在宅生活を続けていく上で必要な支援（将来希望する暮らし方別）



在宅生活を続けていく上で必要な支援を、介護や介助が必要になった場合に希望する暮らし方別にみると、「主に在宅福祉サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」人では、「毎日の食事の準備や掃除・洗濯などの家事を手伝ってもらえること」が60.3%と最も高く、次いで「病院まで送り迎えしてもらえること」「自宅に来てくれる医師や看護師がいること」がともに50%近くとなっている。

図 3-6 在宅生活を続けていく上で必要な支援（家族介護力別）

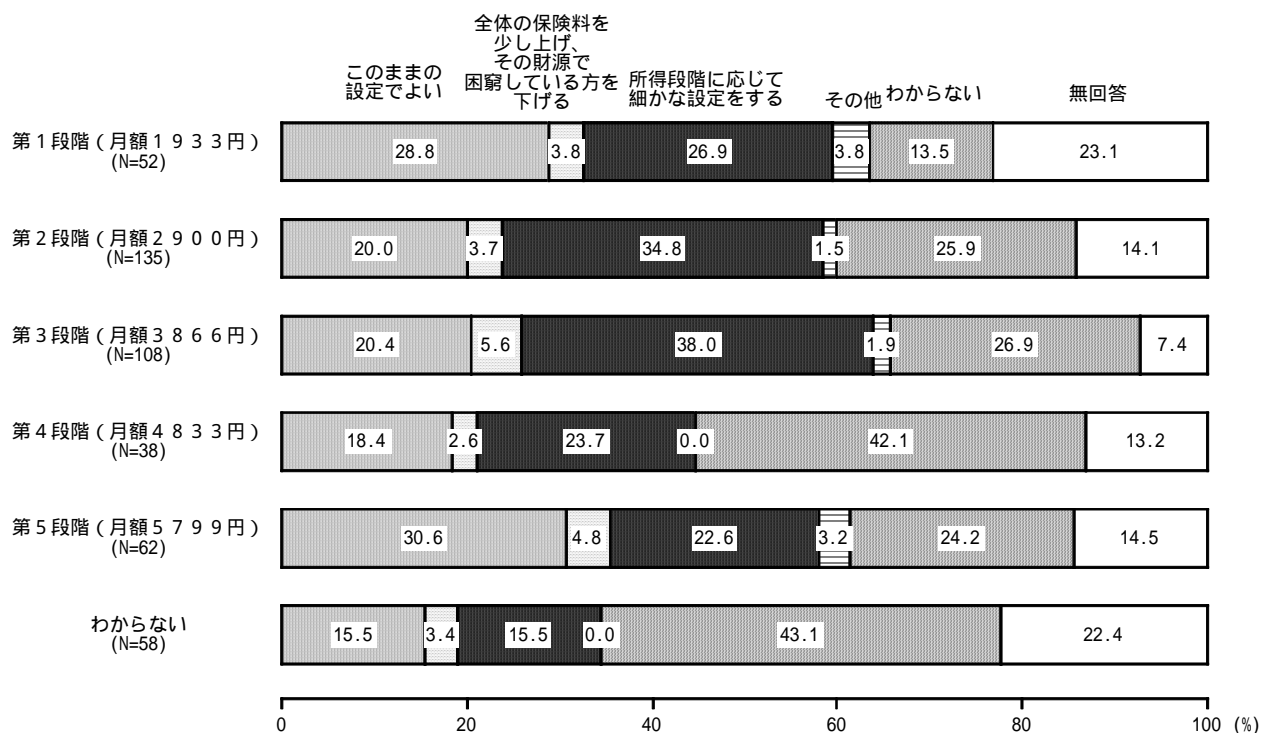


家族の介護力別にみると、「子ども等と同居だが、昼間一人きりになることがある」世帯では、「入浴やトイレなどを介助してもらえること」(46.3%)、「自宅に来てくれる医師や看護師がいること」(44.0%)が他の世帯類型と比べて高くなっている。

4 介護保険制度について

(1) 介護保険料の設定についての意向

図 4-1 介護保険料の設定について（介護保険料の負担別）

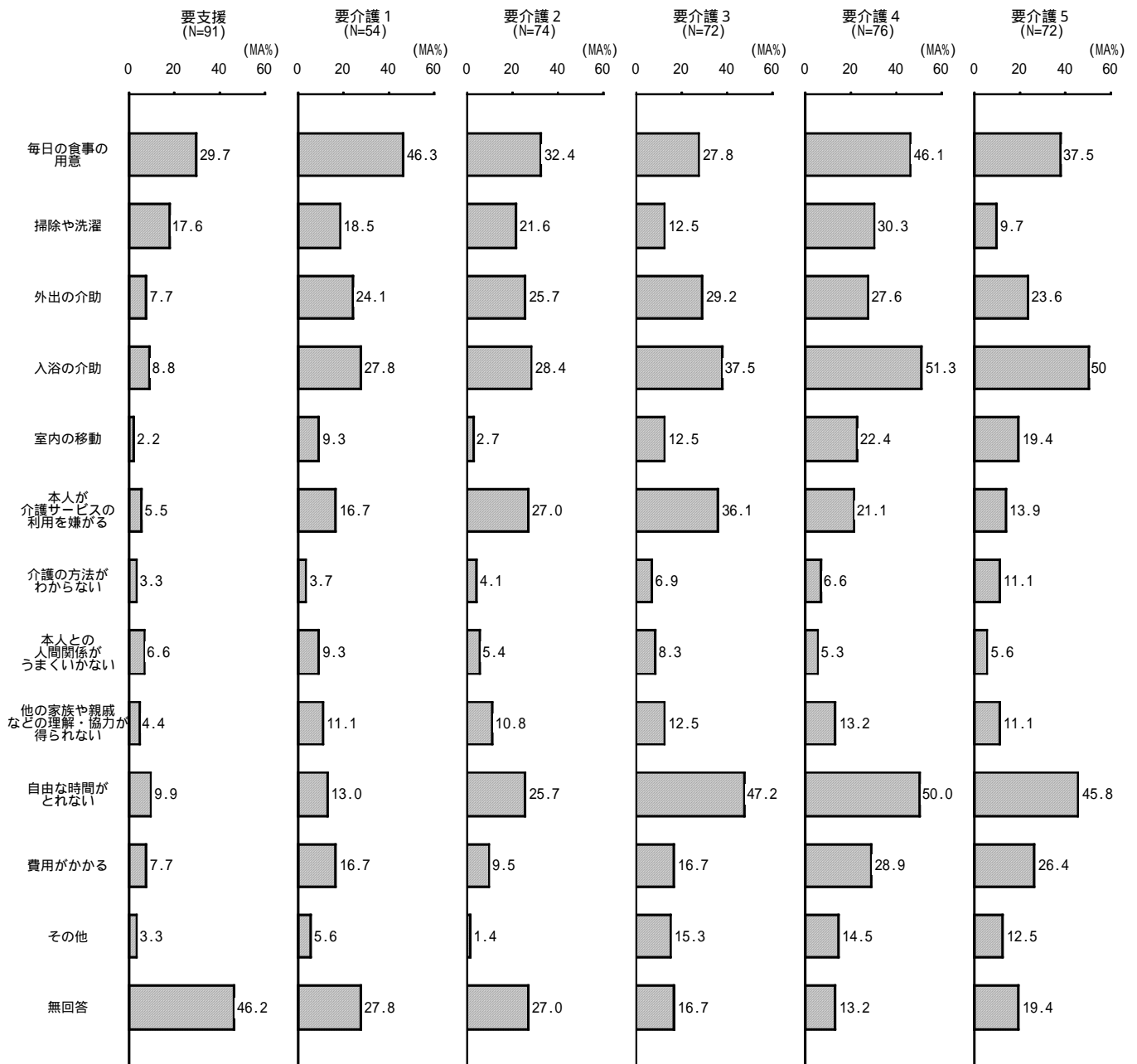


第1号被保険者の所得段階別保険料の設定方法について、介護保険料の段階別にみると、第1段階及び第5段階では「このままの設定でよい」が約3割となっている。

5 在宅介護の状況について

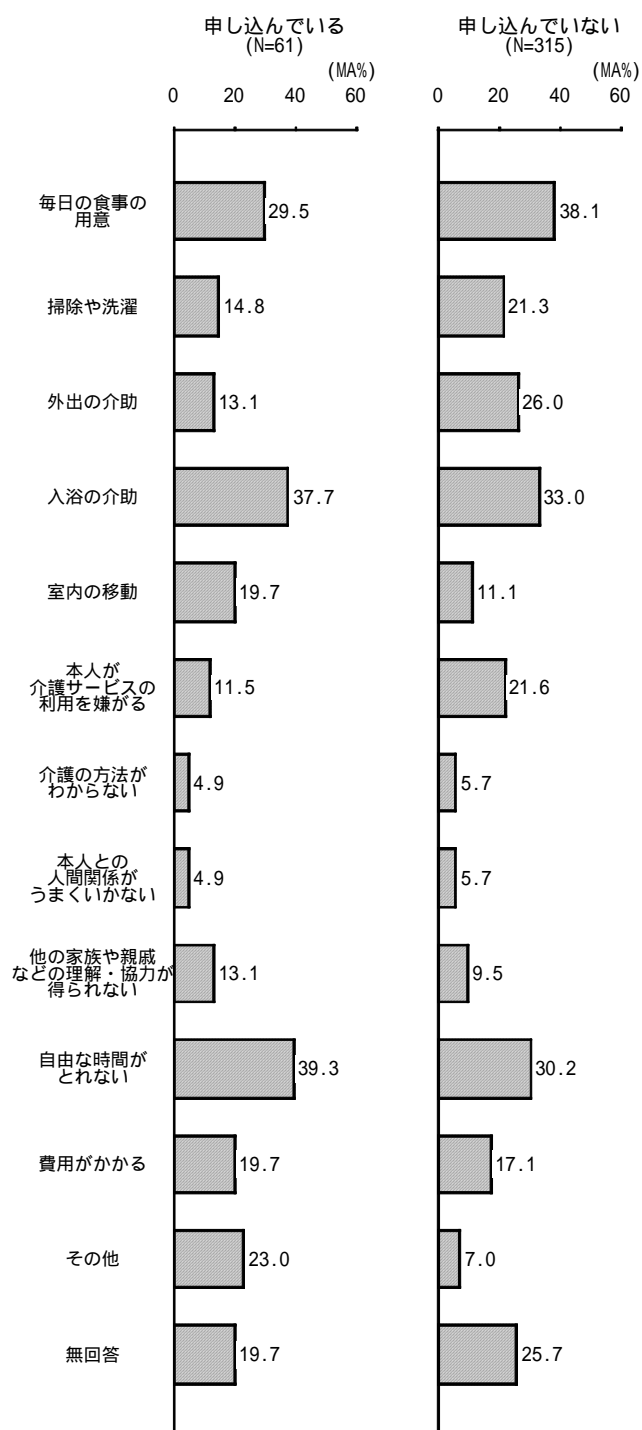
(1) 家庭での介護について負担を感じる内容

図 5-1 家庭での介護について負担を感じる内容（要介護度別）



家庭での介護のうち負担が大きいと感じる内容を要介護度別にみると、要支援～要介護2では「毎日の食事の用意」が最も多く、要介護4以上では「入浴の介助」が第1位となっている。また、要介護3以上では「自由な時間がとれない」が約5割となっている。

図 5-2 家庭での介護について負担を感じる内容（施設への入所申し込みの有無別）



施設への申込みの有無別にみると、「入浴の介助」「自由な時間がとれない」などの項目については申込者の方が負担に感じる割合が高くなっているのに対し、「毎日の食事の用意」「外出の介助」「本人が介護サービスの利用を嫌がる」などの項目については、申込みをしていない人の方が高くなっている。